

科目区分	キャリア系列						
科目名	インターンシップ						
担当教員	単位認定者：青谷 実知代					科目ナンバ-	Z23040
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	就業体験（実習）を通して、志望する業界・企業への理解を深め、社会人として必要なスキルを身につける。						
授業の概要	企業実習に行く前の事前教育では、まずインターンシップとは何か、また参加する意味を理解します。社会人としての仕事への取り組み方やビジネス・マナーなど、必要なスキルを理解し、また、インターンシップに参加する上での目標を設定することで、自らの課題を発見することができ、具体的な行動に移すことが可能です。体験を通して、社会人として必要な資質を学び、将来自分が何をやりたいのか、それをどう実現するのかを主体的に考え、取り組めるようにサポートします。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 就業体験（実習）を通して、志望する業界・企業への理解を深めることができる【知識・理解】 2. 社会で働く意義を考え、自己PRや志望動機につなげる準備ができる【汎用的技能】 3. 社会人として必要なスキルを身につけ、グループ（組織）で協調することができる【態度・志向性】 						
授業計画	<p>【事前学習】（5時間：60分×5回）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義：インターンシップに参加する意義（意義・目的の確認） 2. 講義：インターンシップの現状（業界・業種・企業への理解） 3. 講義：ビジネスマナー及び心構え 4. 講義：キャリア開発における自己理解のための自己分析と企業分析①プレゼンテーション 5. 講義：キャリア開発における自己理解のための自己分析と企業分析②プレゼンテーション <p>【夏休み中実習 ※一部、変更もあります】 6～10. 実習：実習時間は5日間35時間以上を原則とする。</p> <p>【事後学習】（5時間：60分×5回）</p> <ol style="list-style-type: none"> 11. インターンシップの振り返り（業界・業種・企業の特徴とまとめ） 12. インターンシップの振り返り（実習体験の成果、今後の就職活動への抱負等） 13. プレゼンテーション（実習の報告①） 14. プレゼンテーション（実習の報告②） 15. 総括 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ol style="list-style-type: none"> 1. インターンシップの情報をウェブ・新聞などでつかみ、社会の変化を敏感に感じ取ること。 2. 一般常識、マナーなどの日常においても意識しながら行動すること。 						
授業方法	<p>■主に夏休み期間中、企業・行政などの職場で就業体験実習を行う。</p> <p>【実務経験のある教員等による授業】 事前・事後学習は実務経験のある教員が授業をし、インターンシップに参加する意義や社会人としてのビジネスマナー、そしてプレゼンテーションの指導を行う。学生自身の適性や適職を発見したり、今後のキャリアの形成に役立つ。 日程については、後日連絡をする。</p>						
評価基準と評価方法	事前レポート（10%）、事後レポート（10%）、事前指導（10%）、事後指導（10%）、実習先の評価（60%）で総合的に判断する。						
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事前指導・事後指導に必ず参加すること。 2. 研修は、夏休みなどの休暇中に実施するので、日程については各自注意すること。 3. 実習に伴う交通費や宿泊費などは自己負担する。 4. 事前レポート事後レポートの遅延提出、未提出は単位認定不可となります。 5. 履修者の自己都合（病気・ケガなどを含む）及び、天災、実習先の都合などで実習時間が不足した際に、実習先が不足した実習時間を補填できない場合は単位認定不可となります。 6. 登録単位数上限まで履修登録している場合、この科目は履修できません。 						
教科書	なし（必要に応じて資料を配布する）						
参考書	随時紹介する。						

科目区分	キャリア系列						
科目名	海外インターンシップ／海外インターンシップA						
担当教員	単位認定者：池谷 知子					科目ナンバ-	Z21110
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	1～2	単位数	1.0
授業のテーマ	国外で将来のキャリアに関連した就業体験を行い、グローバルなビジネスの実態を知ることにより社会で働くことの意義を考える						
授業の概要	実習先国の歴史や文化、産業や経済情勢などを学びながら日本との違いを理解していく。海外における就業の実態や職場のルール、マナーを学び、実際に企業やその他の組織で体験実習（インターンシップ）を行なう。事前学習では実習先国の歴史的・文化的背景についての講義、語学学習、海外における危機管理、ビジネスマナーについてなど、海外インターンシップに必要な知識を身に付ける。これらの経験を通して、日本における企業体験とは異なる点などを認識し、グローバルビジネスの基礎的な経験を将来のキャリア形成のための一歩として位置付けることを目的とする。						
到達目標	①インターンシップを通じて、自分に適した職業は何か、将来の自己のキャリア形成を考えることができる。【知識・理解】 ②異文化理解を深め、コミュニケーション能力を養うことができる。【汎用的技能】 ③グローバル社会で働くことの意義とその働き方について考えることができる。【知識・理解】 ④社会人基礎力の必要性を考えることができる。【態度・志向性】						
授業計画	<p>【事前学習】</p> <p>第1回 オリエンテーション・実習先国の事業内容の確認 第2回 海外と日本のビジネススタイルの違いについて学ぶ 第3回 実習に必要な言語を学ぶ 第4回 異文化におけるコミュニケーションについて学ぶ 第5回 海外における危機管理について意識を高める。</p> <p>【長期休暇期間中実習】→現地での活動</p> <p>第6回 現地説明 第7回 フィールドワーク1 第8回 フィールドワーク2 第9回 フィールドワーク3 第10回 フィールドワーク4 第11回 フィールドワーク5 第12回 フィールドワーク6 第13回 現地報告会：プレゼンテーション</p> <p>【事後学習】</p> <p>第14回 現地活動のふりかえり、前回のプレゼンテーションのフィードバック 第15回 実習報告：最終プレゼンテーション</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：①ピア学習室等での実習先国言語の自主学習 ②ウェブサイト、新聞、ガイドブックなどで実習先国についての情報を集め、実習先国の知識を得る 事後学習：現地での活動を報告書にまとめ、最終プレゼンテーションの準備を行う 事前・事後学習<5時間>+現地でのフィールドワーク・実習活動<40時間>=合計<45時間>						
授業方法	集中講義（事前学習、海外での実習、事後学習） フィールドワーク、プレゼンテーションを含む 【実務経験のある教員等による授業】 現地企業・組織等において、現地スタッフの指導のもと、就業体験を行う。						
評価基準と評価方法	実習態度、実習先での評価などの総合評価（60%） 事前・事後レポート（20%）、発表（20%）						
履修上の注意	①事前・事後学習に必ず参加すること。 ②参加申込書、誓約書を提出すること。 ③申込み、参加に際し、保証人の同意を得られること。 ④心身共に、健康上の問題のないこと。 ⑤実習中は実習先の指導に従うこと。 ⑥実習に伴う交通費などは自己負担する。						
教科書	プリント配布						
参考書	随時紹介する。						

科目区分	キャリア系列						
科目名	海外インターンシップ／海外インターンシップA						
担当教員	単位認定者：池谷 知子					科目ナンバ-	Z21110
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	1～2	単位数	1.0
授業のテーマ	国外で将来のキャリアに関連した就業体験を行い、グローバルなビジネスの実態を知ることにより社会で働くことの意義を考える						
授業の概要	実習先国の歴史や文化、産業や経済情勢などを学びながら日本との違いを理解していく。海外における就業の実態や職場のルール、マナーを学び、実際に企業やその他の組織で体験実習（インターンシップ）を行なう。事前学習では実習先国の歴史的・文化的背景についての講義、語学学習、海外における危機管理、ビジネスマナーについてなど、海外インターンシップに必要な知識を身に付ける。これらの経験を通して、日本における企業体験とは異なる点などを認識し、グローバルビジネスの基礎的な経験を将来のキャリア形成のための一歩として位置付けることを目的とする。						
到達目標	①インターンシップを通じて、自分に適した職業は何か、将来の自己のキャリア形成を考えることができる。【知識・理解】 ②異文化理解を深め、コミュニケーション能力を養うことができる。【汎用的技能】 ③グローバル社会で働くことの意義とその働き方について考えることができる。【知識・理解】 ④社会人基礎力の必要性を考えることができる。【態度・志向性】						
授業計画	【事前学習】 第1回 オリエンテーション・実習先国の事業内容の確認 第2回 海外と日本のビジネススタイルの違いについて学ぶ 第3回 実習に必要な言語を学ぶ 第4回 異文化におけるコミュニケーションについて学ぶ 第5回 海外における危機管理について意識を高める。 【長期休暇期間中実習】→現地での活動 第6回 現地説明 第7回 フィールドワーク1 第8回 フィールドワーク2 第9回 フィールドワーク3 第10回 フィールドワーク4 第11回 フィールドワーク5 第12回 フィールドワーク6 第13回 現地報告会：プレゼンテーション 【事後学習】 第14回 現地活動のふりかえり、前回のプレゼンテーションのフィードバック 第15回 実習報告：最終プレゼンテーション						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：①ピア学習室等での実習先国言語の自主学習 ②ウェブサイト、新聞、ガイドブックなどで実習先国についての情報を集め、実習先国の知識を得る 事後学習：現地での活動を報告書にまとめ、最終プレゼンテーションの準備を行う 事前・事後学習<5時間>+現地でのフィールドワーク・実習活動<40時間>=合計<45時間>						
授業方法	集中講義（事前学習、海外での実習、事後学習） フィールドワーク、プレゼンテーションを含む 【実務経験のある教員等による授業】 現地企業・組織等において、現地スタッフの指導のもと、就業体験を行う。						
評価基準と評価方法	実習態度、実習先での評価などの総合評価（60%） 事前・事後レポート（20%）、発表（20%）						
履修上の注意	①事前・事後学習に必ず参加すること。 ②参加申込書、誓約書を提出すること。 ③申込み、参加に際し、保証人の同意を得られること。 ④心身共に、健康上の問題のないこと。 ⑤実習中は実習先の指導に従うこと。 ⑥実習に伴う交通費などは自己負担する。						
教科書	プリント配布						
参考書	随時紹介する。						

科目区分	キャリア系列						
科目名	キャリアデザインI						
担当教員	金 智英・種子 康子					科目ナンバ-	Z21010
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	自身のキャリアへの意識を高め、なりたい自分になるために、大学生活における目標を設定します。						
授業の概要	自分や社会を知りながら、「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくる授業です。これから始まる4年間の大学生活をどう過ごすかは、将来に大きな影響を与えます。キャリアデザインIでは、ワークやグループディスカッション等を通して「自分を知る」「社会を知る」「学問とのつながりを考える」ことを中心に、自分（皆さん一人ひとり）にとって良い人生を送るために「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくります。この授業を通して、以下の2点を実現します。 (1) 社会に出るための準備や練習を入学初年次から始めることができる。 (2) 目標を立てることで、自分自身の学生生活を充実させることができる。						
到達目標	(1) 自分を知り、目標を立て実行することができる。【態度・志向性】 (2) コミュニケーション能力を磨くことができる。【汎用的技能】						
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション/キャリアデザインとは・大学で学ぶとは 第2回： コミュニケーションスキルを磨く 第3回： 自己分析①・目標設定 第4回： 先輩からのメッセージ①：充実した学生生活、大学で学ぶということ 第5回： 学生生活で身につけたい意識・知識・スキル/「社会人基礎力」を知る 第6回： 社会を見る目を養う/新聞の読み方/図書館の活用 第7回： 現代社会の考察とキャリアデザイン1：世界の中の日本 第8回： 現代社会の考察とキャリアデザイン2：技術革新による産業や生活の変化 第9回： 現代社会の考察とキャリアデザイン3：人口減少社会を生きる 第10回： 現代社会の考察とキャリアデザイン4：経済活動と自分の生活/家計管理の基本 第11回： 現代社会の考察とキャリアデザイン5：社会を動かす身近な組織研究 第12回： 現代社会の考察とキャリアデザイン6：働き方とライフスタイル/女性の働き方・家族の変化 第13回： 先輩からのメッセージ②：さまざまなキャリア形成 第14回： 確認テスト 自己分析② 第15回： 目標達成の評価と新たな目標の設定/学習のまとめ</p> <p>※全15回で[PC必携]のこと</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習 ・授業で扱うテーマや社会の動きを知るため、最近のニュースを調べします。〈学習時間：週1時間〉</p> <p>授業後学習 ・授業内で気づいたこと、学んだことなどを、日々意識し計画を立てること、行動に移すこと、振り返り確認すること、そして改善することが自身の成長に繋がります。〈学習時間：週2時間〉 ・課題は都度指示をしますので、授業内容の理解を深めるためにも、必ず期限を守って取り組んで下さい。 〈学習時間：半期15時間〉</p>						
授業方法	各テーマについて資料を用いて講義し、それに基づき、グループもしくはペアワークを行った上で、各自課題を提出してもらいます。 【実務経験のある教員等による授業】 キャリア支援サービスを行う企業から講師を招き、講義やワーク、グループディスカッション等を通して、学生生活とキャリアデザインについて考える。〈BYOD対象科目〉						
評価基準と評価方法	<p>平常点40%、レポートなどの課題40%、確認テスト20%として、総合的に評価します。</p> <p>■平常点について ・毎回の授業後に、授業感想等をmanabaにて提出してもらいます。 ・提出回数および記載内容を総合的に評価します。 ・授業への参加態度（積極性、主体性、協調性など）も平常点に含まれます。</p> <p>■レポートなどの課題について ・具体的な課題内容については授業内で発表します。</p> <p>■確認テストについて ・第14回に授業で学んだことを理解できているかを確かめるテストを行います。</p>						
履修上の注意	<p>この授業は、皆さん一人ひとりがこれからの人生を豊かにするため、自分に向き合い、仲間とともに学びあう時間でもあります。 学びの環境作りに協力できない場合、成績評価に影響することがありますので、成果を出すために下記のご注意に注意し、授業に参加してください。</p> <p>①毎回、出席しましょう。BYOD科目のため、全15回PCが必携になります。必ず持参してください。 ②毎回ワークがあります。学んだことを確認するためにも、積極的に参加してください。また、自宅課題が出る場合があります。授業内容の理解を深めるためにも、必ず期限を守って取り組んでください。</p> <p>③授業開始前に着席し、時間を守ってください。遅刻は減点の対象とします。 （やむを得ず遅刻となった場合は、静かに入室着席し、必ず終了後に理由を申し出てください。）</p> <p>④ペア・グループワークでの発言は積極的に行ってください。</p>						

履修上の注意	「聴く・話す」のメリハリを意識し、私語は慎んでください。 ⑤スマートフォンや携帯電話はマナーモードにして、机の上には出さずに、鞆の中に入れてください。 ⑥講義中にむやみに退出しないでください。 (やむを得ず退出したい場合は、手を挙げて、理由を申し出てください。) ⑦飲食、化粧等はしないでください。 ⑧手荷物等を机の上に置かず、授業で使用するもののみを机の上に用意してください。 ⑨事情がある場合を除き、授業中は脱帽して下さい。 ⑩その他、授業の運営を乱す等、他の履修者の迷惑になるような行為は慎んでください。 また、この授業の履修後は、「キャリアデザインⅠ」に続く科目「キャリアデザインⅡ」の履修をすることが望ましいです。
教科書	なし
参考書	なし

科目区分	キャリア系列						
科目名	キャリアデザインI						
担当教員	江 弘毅・野中 容子					科目ナンバ-	Z21010
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	自身のキャリアへの意識を高め、なりたい自分になるために、大学生活における目標を設定します。						
授業の概要	自分や社会を知りながら、「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくる授業です。これから始まる4年間の大学生活をどう過ごすかは、将来に大きな影響を与えます。キャリアデザインIでは、ワークやグループディスカッション等を通して「自分を知る」「社会を知る」「学問とのつながりを考える」ことを中心に、自分（皆さん一人ひとり）にとって良い人生を送るために「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくります。この授業を通して、以下の2点を実現します。 (1) 社会に出るための準備や練習を入学初年次から始めることができる。 (2) 目標を立てることで、自分自身の学生生活を充実させることができる。						
到達目標	(1) 自分を知り、目標を立て実行することができる。【態度・志向性】 (2) コミュニケーション能力を磨くことができる。【汎用的技能】						
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション／キャリアデザインとは・大学で学ぶとは 第2回： コミュニケーションスキルを磨く 第3回： 自己分析①・目標設定 第4回： 先輩からのメッセージ①：充実した学生生活、大学で学ぶということ 第5回： 学生生活で身につけたい意識・知識・スキル／「社会人基礎力」を知る 第6回： 社会を見る目を養う／新聞の読み方／図書館の活用 第7回： 現代社会の考察とキャリアデザイン1：世界の中の日本 第8回： 現代社会の考察とキャリアデザイン2：技術革新による産業や生活の変化 第9回： 現代社会の考察とキャリアデザイン3：人口減少社会を生きる 第10回： 現代社会の考察とキャリアデザイン4：経済活動と自分の生活／家計管理の基本 第11回： 現代社会の考察とキャリアデザイン5：社会を動かす身近な組織研究 第12回： 現代社会の考察とキャリアデザイン6：働き方とライフスタイル／女性の働き方・家族の変化 第13回： 先輩からのメッセージ②：さまざまなキャリア形成 第14回： 確認テスト 自己分析② 第15回： 目標達成の評価と新たな目標の設定／学習のまとめ</p> <p>※全15回で[PC必携]のこと</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習 ・授業で扱うテーマや社会の動きを知るため、最近のニュースを調べします。〈学習時間：週1時間〉</p> <p>授業後学習 ・授業内で気づいたこと、学んだことなどを、日々意識し計画を立てること、行動に移すこと、振り返り確認すること、そして改善することが自身の成長に繋がります。〈学習時間：週2時間〉 ・課題は都度指示をしますので、授業内容の理解を深めるためにも、必ず期限を守って取り組んで下さい。 〈学習時間：半期15時間〉</p>						
授業方法	各テーマについて資料を用いて講義し、それに基づき、グループもしくはペアワークを行った上で、各自課題を提出してもらいます。 【実務経験のある教員等による授業】 キャリア支援サービスを行う企業から講師を招き、講義やワーク、グループディスカッション等を通して、学生生活とキャリアデザインについて考える。〈BYOD対象科目〉						
評価基準と評価方法	<p>平常点40%、レポートなどの課題40%、確認テスト20%として、総合的に評価します。</p> <p>■平常点について ・毎回の授業後に、授業感想等をmanabaにて提出してもらいます。 ・提出回数および記載内容を総合的に評価します。 ・授業への参加態度（積極性、主体性、協調性など）も平常点に含まれます。</p> <p>■レポートなどの課題について ・具体的な課題内容については授業内で発表します。</p> <p>■確認テストについて ・第14回に授業で学んだことを理解できているかを確かめるテストを行います。</p>						
履修上の注意	<p>この授業は、皆さん一人ひとりがこれからの人生を豊かにするため、自分に向き合い、仲間とともに学びあう時間でもあります。 学びの環境作りに協力できない場合、成績評価に影響することがありますので、成果を出すために下記のご注意に注意し、授業に参加してください。</p> <p>①毎回、出席しましょう。BYOD科目のため、全15回PCが必携になります。必ず持参してください。 ②毎回ワークがあります。学んだことを確認するためにも、積極的に参加してください。また、自宅課題が出る場合があります。授業内容の理解を深めるためにも、必ず期限を守って取り組んでください。</p> <p>③授業開始前に着席し、時間を守ってください。遅刻は減点の対象とします。 （やむを得ず遅刻となった場合は、静かに入室着席し、必ず終了後に理由を申し出てください。） ④ペア・グループワークでの発言は積極的に行ってください。</p>						

履修上の注意	「聴く・話す」のメリハリを意識し、私語は慎んでください。 ⑤スマートフォンや携帯電話はマナーモードにして、机の上には出さずに、鞆の中に入れてください。 ⑥講義中にむやみに退出しないでください。 (やむを得ず退出したい場合は、手を挙げて、理由を申し出てください。) ⑦飲食、化粧等はしないでください。 ⑧手荷物等を机の上に置かず、授業で使用するもののみを机の上に用意してください。 ⑨事情がある場合を除き、授業中は脱帽して下さい。 ⑩その他、授業の運営を乱す等、他の履修者の迷惑になるような行為は慎んでください。 また、この授業の履修後は、「キャリアデザインⅠ」に続く科目「キャリアデザインⅡ」の履修をすることが望ましいです。
教科書	なし
参考書	なし

科目区分	キャリア系列						
科目名	キャリアデザインI						
担当教員	小松 貴弘・種子 康子					科目ナンバ-	Z21010
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	自身のキャリアへの意識を高め、なりたい自分になるために、大学生活における目標を設定します。						
授業の概要	自分や社会を知りながら、「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくる授業です。これから始まる4年間の大学生活をどう過ごすかは、将来に大きな影響を与えます。キャリアデザインIでは、ワークやグループディスカッション等を通して「自分を知る」「社会を知る」「学問とのつながりを考える」ことを中心に、自分(皆さん一人ひとり)にとって良い人生を送るために「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくります。この授業を通して、以下の2点を実現します。 (1) 社会に出るための準備や練習を入学初年次から始めることができる。 (2) 目標を立てることで、自分自身の学生生活を充実させることができる。						
到達目標	(1) 自分を知り、目標を立て実行することができる。【態度・志向性】 (2) コミュニケーション能力を磨くことができる。【汎用的技能】						
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション/キャリアデザインとは・大学で学ぶとは 第2回：コミュニケーションスキルを磨く 第3回：自己分析①・目標設定 第4回：先輩からのメッセージ①：充実した学生生活、大学で学ぶということ 第5回：学生生活で身につけたい意識・知識・スキル/「社会人基礎力」を知る 第6回：社会を見る目を養う/新聞の読み方/図書館の活用 第7回：現代社会の考察とキャリアデザイン1：世界の中の日本 第8回：現代社会の考察とキャリアデザイン2：技術革新による産業や生活の変化 第9回：現代社会の考察とキャリアデザイン3：人口減少社会を生きる 第10回：現代社会の考察とキャリアデザイン4：経済活動と自分の生活/家計管理の基本 第11回：現代社会の考察とキャリアデザイン5：社会を動かす身近な組織研究 第12回：現代社会の考察とキャリアデザイン6：働き方とライフスタイル/女性の働き方・家族の変化 第13回：先輩からのメッセージ②：さまざまなキャリア形成 第14回：確認テスト 自己分析② 第15回：目標達成の評価と新たな目標の設定/学習のまとめ</p> <p>※全15回で[PC必携]のこと</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>授業前準備学習 ・授業で扱うテーマや社会の動きを知るため、最近のニュースを下調べします。〈学習時間：週1時間〉</p> <p>授業後学習 ・授業内で気づいたこと、学んだことなどを、日々意識し計画を立てること、行動に移すこと、振り返り確認すること、そして改善することが自身の成長に繋がります。〈学習時間：週2時間〉 ・課題は都度指示をしますので、授業内容の理解を深めるためにも、必ず期限を守って取り組んで下さい。〈学習時間：半期15時間〉</p>						
授業方法	各テーマについて資料を用いて講義し、それに基づき、グループもしくはペアワークを行った上で、各自課題を提出してもらいます。 【実務経験のある教員等による授業】 キャリア支援サービスを行う企業から講師を招き、講義やワーク、グループディスカッション等を通して、学生生活とキャリアデザインについて考える。〈BYOD対象科目〉						
評価基準と評価方法	<p>平常点40%、レポートなどの課題40%、確認テスト20%として、総合的に評価します。</p> <p>■平常点について ・毎回の授業後に、授業感想等をmanabaにて提出してもらいます。 ・提出回数および記載内容を総合的に評価します。 ・授業への参加態度(積極性、主体性、協調性など)も平常点に含まれます。</p> <p>■レポートなどの課題について ・具体的な課題内容については授業内で発表します。</p> <p>■確認テストについて ・第14回に授業で学んだことを理解できているかを確かめるテストを行います。</p>						
履修上の注意	<p>この授業は、皆さん一人ひとりがこれからの人生を豊かにするため、自分に向き合い、仲間とともに学びあう時間でもあります。 学びの環境作りに協力できない場合、成績評価に影響することがありますので、成果を出すために下記のことにご注意し、授業に参加してください。</p> <p>① 毎回、出席しましょう。BYOD科目のため、全15回PCが必携になります。必ず持参してください。 ② 毎回ワークがあります。学んだことを確認するためにも、積極的に参加してください。また、自宅課題が出る場合があります。授業内容の理解を深めるためにも、必ず期限を守って取り組んでください。</p> <p>③ 授業開始前に着席し、時間を守ってください。遅刻は減点の対象とします。(やむを得ず遅刻となった場合は、静かに入室着席し、必ず終了後に理由を申し出てください。) ④ ペア・グループワークでの発言は積極的に行ってください。 「聴く・話す」のメリハリを意識し、私語は慎んでください。</p>						

履修上の注意	⑤スマートフォンや携帯電話はマナーモードにして、机の上には出さずに、鞆の中に入れてください。 ⑥講義中にむやみに退出しないでください。 (やむを得ず退出したい場合は、手を挙げて、理由を申し出てください。) ⑦飲食、化粧等はしないでください。 ⑧手荷物等を机の上に置かず、授業で使用するもののみを机の上に用意してください。 ⑨事情がある場合を除き、授業中は脱帽して下さい。 ⑩その他、授業の運営を乱す等、他の履修者の迷惑になるような行為は慎んでください。 また、この授業の履修後は、「キャリアデザインⅠ」に続く科目「キャリアデザインⅡ」の履修をすることが望ましいです。
教科書	なし
参考書	なし

科目区分	キャリア系列						
科目名	キャリアデザインI						
担当教員	西川 良子・勝田 景子					科目ナンバ-	Z21010
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	自身のキャリアへの意識を高め、なりたい自分になるために、大学生活における目標を設定します。						
授業の概要	自分や社会を知りながら、「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくる授業です。これから始まる4年間の大学生活をどう過ごすかは、将来に大きな影響を与えます。キャリアデザインIでは、ワークやグループディスカッション等を通して「自分を知る」「社会を知る」「学問とのつながりを考える」ことを中心に、自分(皆さん一人ひとり)にとって良い人生を送るために「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくります。この授業を通して、以下の2点を実現します。 (1)社会に出るための準備や練習を入学初年次から始めることができる。 (2)目標を立てることで、自分自身の学生生活を充実させることができる。						
到達目標	(1)自分を知り、目標を立て実行することができる。【態度・志向性】 (2)コミュニケーション能力を磨くことができる。【汎用的技能】						
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション/キャリアデザインとは・大学で学ぶとは 第2回：コミュニケーションスキルを磨く 第3回：自己分析①・目標設定 第4回：先輩からのメッセージ①：充実した学生生活、大学で学ぶということ 第5回：学生生活で身につけたい意識・知識・スキル/「社会人基礎力」を知る 第6回：社会を見る目を養う/新聞の読み方/図書館の活用 第7回：現代社会の考察とキャリアデザイン1：世界の中の日本 第8回：現代社会の考察とキャリアデザイン2：技術革新による産業や生活の変化 第9回：現代社会の考察とキャリアデザイン3：人口減少社会を生きる 第10回：現代社会の考察とキャリアデザイン4：経済活動と自分の生活/家計管理の基本 第11回：現代社会の考察とキャリアデザイン5：社会を動かす身近な組織研究 第12回：現代社会の考察とキャリアデザイン6：働き方とライフスタイル/女性の働き方・家族の変化 第13回：先輩からのメッセージ②：さまざまなキャリア形成 第14回：確認テスト 自己分析② 第15回：目標達成の評価と新たな目標の設定/学習のまとめ</p> <p>※全15回で[PC必携]のこと</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>授業前準備学習 ・授業で扱うテーマや社会の動きを知るため、最近のニュースを調べします。〈学習時間：週1時間〉</p> <p>授業後学習 ・授業内で気づいたこと、学んだことなどを、日々意識し計画を立てること、行動に移すこと、振り返り確認すること、そして改善することが自身の成長に繋がります。〈学習時間：週2時間〉 ・課題は都度指示をしますので、授業内容の理解を深めるためにも、必ず期限を守って取り組んで下さい。 〈学習時間：半期15時間〉</p>						
授業方法	各テーマについて資料を用いて講義し、それに基づき、グループもしくはペアワークを行った上で、各自課題を提出してもらいます。 【実務経験のある教員等による授業】 キャリア支援サービスを行う企業から講師を招き、講義やワーク、グループディスカッション等を通して、学生生活とキャリアデザインについて考える。〈BYOD対象科目〉						
評価基準と評価方法	<p>平常点40%、レポートなどの課題40%、確認テスト20%として、総合的に評価します。</p> <p>■平常点について ・毎回の授業後に、授業感想等をmanabaにて提出してもらいます。 ・提出回数および記載内容を総合的に評価します。 ・授業への参加態度(積極性、主体性、協調性など)も平常点に含みます。</p> <p>■レポートなどの課題について ・具体的な課題内容については授業内で発表します。</p> <p>■確認テストについて ・第14回に授業で学んだことを理解できているかを確かめるテストを行います。</p>						
履修上の注意	<p>この授業は、皆さん一人ひとりがこれからの人生を豊かにするため、自分に向き合い、仲間とともに学びあう時間でもあります。 学びの環境作りに協力できない場合、成績評価に影響することがありますので、成果を出すために下記のご注意に注意し、授業に参加してください。 ①毎回、出席しましょう。BYOD科目のため、全15回PCが必携になります。必ず持参してください。 ②毎回ワークがあります。学んだことを確認するためにも、積極的に参加してください。また、自宅課題が出る場合があります。授業内容の理解を深めるためにも、必ず期限を守って取り組んでください。 ③授業開始前に着席し、時間を守ってください。遅刻は減点の対象とします。 (やむを得ず遅刻となった場合は、静かに入室着席し、必ず終了後に理由を申し出てください。) ④ペア・グループワークでの発言は積極的に行ってください。</p>						

履修上の注意	「聴く・話す」のメリハリを意識し、私語は慎んでください。 ⑤スマートフォンや携帯電話はマナーモードにして、机の上には出さずに、鞆の中に入れてください。 ⑥講義中にむやみに退出しないでください。 (やむを得ず退出したい場合は、手を挙げて、理由を申し出てください。) ⑦飲食、化粧等はしないでください。 ⑧手荷物等を机の上に置かず、授業で使用するもののみを机の上に用意してください。 ⑨事情がある場合を除き、授業中は脱帽して下さい。 ⑩その他、授業の運営を乱す等、他の履修者の迷惑になるような行為は慎んでください。 また、この授業の履修後は、「キャリアデザインⅠ」に続く科目「キャリアデザインⅡ」の履修をすることが望ましいです。
教科書	なし
参考書	なし

科目区分	キャリア系列						
科目名	キャリアデザインI						
担当教員	枅井 智英・野中 容子					科目ナンバ-	Z21010
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	自身のキャリアへの意識を高め、なりたい自分になるために、大学生活における目標を設定します。						
授業の概要	自分や社会を知りながら、「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくる授業です。これから始まる4年間の大学生活をどう過ごすかは、将来に大きな影響を与えます。キャリアデザインIでは、ワークやグループディスカッション等を通して「自分を知る」「社会を知る」「学問とのつながりを考える」ことを中心に、自分(皆さん一人ひとり)にとって良い人生を送るために「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくりまします。この授業を通して、以下の2点を実現します。 (1)社会に出るための準備や練習を入学初年次から始めることができる。 (2)目標を立てることで、自分自身の学生生活を充実させることができる。						
到達目標	(1)自分を知り、目標を立て実行することができる。【態度・志向性】 (2)コミュニケーション能力を磨くことができる。【汎用的技能】						
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション／キャリアデザインとは・大学で学ぶとは 第2回： コミュニケーションスキルを磨く 第3回： 自己分析①・目標設定 第4回： 先輩からのメッセージ①：充実した学生生活、大学で学ぶということ 第5回： 学生生活で身につけたい意識・知識・スキル／「社会人基礎力」を知る 第6回： 社会を見る目を養う／新聞の読み方／図書館の活用 第7回： 現代社会の考察とキャリアデザイン1：世界の中の日本 第8回： 現代社会の考察とキャリアデザイン2：技術革新による産業や生活の変化 第9回： 現代社会の考察とキャリアデザイン3：人口減少社会を生きる 第10回： 現代社会の考察とキャリアデザイン4：経済活動と自分の生活／家計管理の基本 第11回： 現代社会の考察とキャリアデザイン5：社会を動かす身近な組織研究 第12回： 現代社会の考察とキャリアデザイン6：働き方とライフスタイル／女性の働き方・家族の変化 第13回： 先輩からのメッセージ②：さまざまなキャリア形成 第14回： 確認テスト 自己分析② 第15回： 目標達成の評価と新たな目標の設定／学習のまとめ</p> <p>※全15回で[PC必携]のこと</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>授業前準備学習 ・授業で扱うテーマや社会の動きを知るため、最近のニュースを下調べします。〈学習時間：週1時間〉</p> <p>授業後学習 ・授業内で気づいたこと、学んだことなどを、日々意識し計画を立てること、行動に移すこと、振り返り確認すること、そして改善することが自身の成長に繋がります。〈学習時間：週2時間〉 ・課題は都度指示をしますので、授業内容の理解を深めるためにも、必ず期限を守って取り組んで下さい。 〈学習時間：半期15時間〉</p>						
授業方法	各テーマについて資料を用いて講義し、それに基づき、グループもしくはペアワークを行った上で、各自課題を提出してもらいます。 【実務経験のある教員等による授業】 キャリア支援サービスを行う企業から講師を招き、講義やワーク、グループディスカッション等を通して、学生生活とキャリアデザインについて考える。〈BYOD対象科目〉						
評価基準と評価方法	<p>平常点40%、レポートなどの課題40%、確認テスト20%として、総合的に評価します。</p> <p>■平常点について ・毎回の授業後に、授業感想等をmanabaにて提出してもらいます。 ・提出回数および記載内容を総合的に評価します。 ・授業への参加態度(積極性、主体性、協調性など)も平常点に含まれます。</p> <p>■レポートなどの課題について ・具体的な課題内容については授業内で発表します。</p> <p>■確認テストについて ・第14回に授業で学んだことを理解できているかを確かめるテストを行います。</p>						
履修上の注意	<p>この授業は、皆さん一人ひとりがこれからの人生を豊かにするため、自分に向き合い、仲間とともに学びあう時間でもあります。 学びの環境作りに協力できない場合、成績評価に影響することがありますので、成果を出すために下記のご注意に注意し、授業に参加してください。 ①毎回、出席しましょう。BYOD科目のため、全15回PCが必携になります。必ず持参してください。 ②毎回ワークがあります。学んだことを確認するためにも、積極的に参加してください。また、自宅課題が出る場合があります。授業内容の理解を深めるためにも、必ず期限を守って取り組んでください。 ③授業開始前に着席し、時間を守ってください。遅刻は減点の対象とします。 (やむを得ず遅刻となった場合は、静かに入室着席し、必ず終了後に理由を申し出てください。) ④ペア・グループワークでの発言は積極的に行ってください。</p>						

履修上の注意	「聴く・話す」のメリハリを意識し、私語は慎んでください。 ⑤スマートフォンや携帯電話はマナーモードにして、机の上には出さずに、鞆の中に入れてください。 ⑥講義中にむやみに退出しないでください。 (やむを得ず退出したい場合は、手を挙げて、理由を申し出てください。) ⑦飲食、化粧等はしないでください。 ⑧手荷物等を机の上に置かず、授業で使用するもののみを机の上に用意してください。 ⑨事情がある場合を除き、授業中は脱帽して下さい。 ⑩その他、授業の運営を乱す等、他の履修者の迷惑になるような行為は慎んでください。 また、この授業の履修後は、「キャリアデザインⅠ」に続く科目「キャリアデザインⅡ」の履修をすることが望ましいです。
教科書	なし
参考書	なし

科目区分	キャリア系列						
科目名	キャリアデザインII						
担当教員	青谷 実知代・種子 康子					科目ナンバ-	Z21020
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	「広い視野をもち、自分なりの考えをもって行動する」ことをテーマとし、自己の将来像を設定し、その実現に向けて活動できるようにします。						
授業の概要	社会で求められる基本的なスキルを身につけ、考える力を支える「知識」を得ることで、より自分に合った進路選択ができる可能性が高まり、また自信にもつながります。キャリアデザインIIでは、ワークやグループディスカッション等を通して、「社会で求められる基本的なスキル」を修得します。また、これらを大学生活の中で身につけられるように導きます。この講座を受講することにより、以下の2点を実現します。 (1)社会に出る(就職)ための具体的な準備や練習を始めることができる。 (2)社会人として(意識)を育みながら、自分自身の大学生活を充実させることができる。						
到達目標	(1)社会で求められるコミュニケーション能力を身につけることができる。【汎用的技能】 (2)社会人としての生き方を学び、自分に適した仕事、働き方、生き方について考えることができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回：オリエンテーション／キャリアデザインとは・社会人とは。 第2回：コミュニケーションスキルを磨く 第3回：「社会人基礎力」から自己分析①目標設定 第4回：当事者意識を持って社会に向かう～想像力・共感力 第5回：考える力を高める～課題発見力・批判的思考 第6回：現代社会の考察とキャリアデザイン1：世界の国々と日本 第7回：現代社会の考察とキャリアデザイン2：SDGsと企業活動 第8回：先輩からのメッセージ①：就職活動とワークライフバランス 第9回：現代社会の考察とキャリアデザイン3：日本を支える産業と企業 第10回：現代社会の考察とキャリアデザイン4：好きな道に進む。仕事を理解すること、そして改善することが自身の成長に繋がります。〈学習時間：週2時間〉 第11回：現代社会の考察とキャリアデザイン5：女性の働き方・「価値観」の研究 第12回：現代社会の考察とキャリアデザイン6：社会人としての権利と義務 第13回：先輩からのメッセージ②：さまざまな働き方 第14回：確認テスト 自己分析② 第15回：目標達成の評価と新たな目標の設定／学習のまとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習 ・授業で扱うテーマや社会の動きを知るため、最近のニュースを下調べします。〈学習時間：週1時間〉 授業後学習 ・授業内で気づいたこと、学んだことなどを、日々意識し計画を立てること、行動に移すこと、振り返り確認すること、そして改善することが自身の成長に繋がります。〈学習時間：週2時間〉 ・課題は都度指示をしますので、授業内容の理解を深めるためにも、必ず期限を守って取り組んで下さい。〈学習時間：週1時間〉						
授業方法	各テーマについて資料を用いて講義し、それに基づき、グループもしくはペアワークを行った上で、各自課題を提出してもらいます。 【実務経験のある教員等による授業】 キャリア支援サービスをおこなう企業から講師を招き、ワークやグループディスカッション等を通して、ジェネリック・スキルの養成や社会人として生き方を考える。						
評価基準と評価方法	平常点40%、レポートなどの課題40%、確認テスト20%として、総合的に評価します。 ■平常点について ・毎回の授業後に、授業感想等をmanabaに提出してもらいます。 ・提出回数および記載内容を総合的に評価します。 ・授業への参加態度(積極性、主体性、協調性など)も平常点に含まれます。 ■レポートなどの課題について ・具体的な課題内容については授業内で発表します。 ■確認テストについて ・第14回に授業で学んだことを理解できているかを確かめるテストを行います。						
履修上の注意	この授業は、皆さん一人ひとりがこれからの人生を豊かにするため、自分に向き合い、仲間とともに学びあう時間でもあります。学びの環境作りに協力できない場合、成績評価に影響することがありますので、成果を出すために下記のことにご注意し、授業に参加してください。 ①毎回、出席しましょう。 ②毎回ワークがあります。学んだことを確認するためにも、積極的に参加してください。また、自宅課題が出る場合があります。授業内容の理解を深めるためにも、必ず期限を守って取り組んでください。 ③授業開始前に着席し、時間を守ってください。遅刻は減点の対象とします。(やむを得ず遅刻となった場合は、静かに入室着席し、必ず終了後に理由を申し出てください。) ④ペア・グループワークでの発言は積極的に行ってください。「聴く・話す」のメリハリを意識し、私語は慎んでください。 ⑤スマートフォンや携帯電話はマナーモードにして、机の上には出さずに、鞆の中に入れてください。 ⑥講義中にむやみに退出しないでください。						

履修上の注意	(やむを得ず退出したい場合は、手を挙げて、理由を申し出てください。) ⑦飲食、化粧等はしないでください。 ⑧手荷物等を机の上に置かず、授業で使用するもののみを机の上に用意してください。 ⑨事情がある場合を除き、授業中は脱帽して下さい。 ⑩その他、授業の運営を乱す等、他の履修者の迷惑になるような行為は慎んでください。
教科書	なし
参考書	なし

科目区分	キャリア系列						
科目名	キャリアデザインII						
担当教員	青谷 実知代・種子 康子					科目ナンバ-	Z21020
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	「広い視野をもち、自分なりの考えをもって行動する」ことをテーマとし、自己の将来像を設定し、その実現に向けて活動できるようにします。						
授業の概要	社会で求められる基本的なスキルを身につけ、考える力を支える「知識」を得ることで、より自分に合った進路選択ができる可能性が高まり、また自信にもつながります。キャリアデザインIIでは、ワークやグループディスカッション等を通して、「社会で求められる基本的なスキル」を修得します。また、これらを大学生活の中で身につけられるように導きます。この講座を受講することにより、以下の2点を実現します。 (1)社会に出る(就職)ための具体的な準備や練習を始めることができる。 (2)社会人として意識を育みながら、自分自身の学生生活を充実させることができる。						
到達目標	(1)社会で求められるコミュニケーション能力を身につけることができる。【汎用的技能】 (2)社会人としての生き方を学び、自分に適した仕事、働き方、生き方について考えることができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回：オリエンテーション/キャリアデザインとは・社会人とは。 第2回：コミュニケーションスキルを磨く 第3回：「社会人基礎力」から自己分析①目標設定 第4回：当事者意識を持って社会に向かう～想像力・共感力 第5回：考える力を高める～課題発見力・批判的思考 第6回：現代社会の考察とキャリアデザイン1：世界の国々と日本 第7回：現代社会の考察とキャリアデザイン2：SDGsと企業活動 第8回：先輩からのメッセージ①：就職活動とワークライフバランス 第9回：現代社会の考察とキャリアデザイン3：日本を支える産業と企業 第10回：現代社会の考察とキャリアデザイン4：好きな道に進む。仕事を理解すること、そして改善することが自身の成長に繋がります。<学習時間：週2時間> 第11回：現代社会の考察とキャリアデザイン5：女性の働き方・「価値観」の研究 第12回：現代社会の考察とキャリアデザイン6：社会人としての権利と義務 第13回：先輩からのメッセージ②：さまざまな働き方 第14回：確認テスト 自己分析②： 第15回：目標達成の評価と新たな目標の設定/学習のまとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習 ・授業で扱うテーマや社会の動きを知るため、最近のニュースを下調べします。<学習時間：週1時間> 授業後学習 ・授業内で気づいたこと、学んだことなどを、日々意識し計画を立てること、行動に移すこと、振り返り確認すること、そして改善することが自身の成長に繋がります。<学習時間：週2時間> ・課題は都度指示をしますので、授業内容の理解を深めるためにも、必ず期限を守って取り組んで下さい。 <学習時間：週1時間>						
授業方法	各テーマについて資料を用いて講義し、それに基づき、グループもしくはペアワークを行った上で、各自課題を提出してもらいます。 【実務経験のある教員等による授業】 キャリア支援サービスをおこなう企業から講師を招き、ワークやグループディスカッション等を通して、ジェネリック・スキルの養成や社会人として生き方を考える。						
評価基準と評価方法	平常点40%、レポートなどの課題40%、確認テスト20%として、総合的に評価します。 ■平常点について ・毎回の授業後に、授業感想等をmanabaに提出してもらいます。 ・提出回数および記載内容を総合的に評価します。 ・授業への参加態度(積極性、主体性、協調性など)も平常点に含まれます。 ■レポートなどの課題について ・具体的な課題内容については授業内で発表します。 ■確認テストについて ・第14回に授業で学んだことを理解できているかを確かめるテストを行います。						
履修上の注意	この授業は、皆さん一人ひとりがこれからの人生を豊かにするため、自分に向き合い、仲間とともに学びあう時間でもあります。学びの環境作りに協力できない場合、成績評価に影響することがありますので、成果を出すために下記のことにご注意し、授業に参加してください。 ①毎回、出席しましょう。 ②毎回ワークがあります。学んだことを確認するためにも、積極的に参加してください。また、自宅課題が出る場合があります。授業内容の理解を深めるためにも、必ず期限を守って取り組んでください。 ③授業開始前に着席し、時間を守ってください。遅刻は減点の対象とします。(やむを得ず遅刻となった場合は、静かに入室着席し、必ず終了後に理由を申し出てください。) ④ペア・グループワークでの発言は積極的に行ってください。「聴く・話す」のメリハリを意識し、私語は慎んでください。 ⑤スマートフォンや携帯電話はマナーモードにして、机の上には出さずに、鞆の中に入れてください。 ⑥講義中にむやみに退出しないでください。						

履修上の注意	(やむを得ず退出したい場合は、手を挙げて、理由を申し出てください。) ⑦飲食、化粧等はしないでください。 ⑧手荷物等を机の上に置かず、授業で使用するもののみを机の上に用意してください。 ⑨事情がある場合を除き、授業中は脱帽して下さい。 ⑩その他、授業の運営を乱す等、他の履修者の迷惑になるような行為は慎んでください。
教科書	なし
参考書	なし

科目区分	キャリア系列						
科目名	キャリアデザイン研究						
担当教員	単位認定者：青谷 実知代					科目ナンバ-	Z23030
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	業界・業種を深く理解すると共に、昨今の取り組みについてゲストスピーカー（現場担当者）から直接伺い、社会の実態を理解し、主体的に就職活動を取り組める力（志望動機や自己PR、伝える力、質問力など）を養う。						
授業の概要	「職業生涯における仕事の経験の連鎖あるいはその蓄積」と定義づけられるキャリアであるが、IT化・グローバル化の進展、産業構造の変化、企業浮沈等、変革が激しい中、キャリアの本質に迫れないことも事実である。そこで、現場で実践を積んでおられる多様な業界・業種から講師をお招きし、広範囲な職業観や勤労観そして問題点を学び、自分自身の成長・発達につなげると共に、「総合知」でキャリアデザインが研究を深めていく。						
到達目標	①職場や地域で活躍する上で必要な知識を身につけることができる。（知識・理解） ②業種と業界の違いを理解し、自らの興味・関心の領域をより具体的なものとして意識することができる。（態度・志向性） ③就職活動で活かせる志望動機や自己PRが書けるようになる。（汎用的技能）						
授業計画	<p>本講義はそれぞれの講師が下記の講義項目について、1コマずつ担当するオムニバス形式による授業です。この科目はキャリア教育センターが開講するもので、学生に「各業界の現状と今後の展望」を紹介し、「各業界に必要な資質とその涵養」について理解させることを目的とします。また本年度は、各社グループ関連企業についても理解を深めてもらう。（企業の方の異動に伴い変更も有ります）</p> <p>第1回 業界・業種研究を深めキャリアデザインを考える：青谷実知代 第2回 株式会社SHKライン 第3回 KAHMジャパン株式会社（Oxford University Innovation 日本事務所）代表取締役CEO 第4回 株式会社 阪急交通社株式会社 第5回 株式会社 第一生命保険 第6回 株式会社ホテルグランヴィア大阪 第7回 株式会社 サンリオ 第8回 IT関連企業 第9回 公益財団法人 大阪観光局 溝畑局長 第10回 株式会社 東急不動産 第11回 株式会社 東急エージェンシー 第12回 株式会社 FM802 第13回 西日本旅客鉄道株式会社 第14回 株式会社 i-plug 第15回 業界の様々な取り組みとキャリアデザイン（総まとめ）青谷実知代</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：日頃から新聞や各種業界雑誌を読むように心がける。関心ある業界の傾向をつかむ。【2時間】 授業後学習：学んだ企業の会社概況などを読み、企業の理解を深める。【2時間】						
授業方法	オムニバス形式の講義 【実務経験のある教員等による授業】 毎回各業界（卸小売・製造・サービス・金融等）からゲストスピーカーが、その業界の現状を伝え、就職活動で生かせる知識を指導する。						
評価基準と評価方法	・授業内での提出物（70%）：各回提出のリアクションペーパー ・事前課題レポート（30%）：業界・業種の理解度、業界に関する自らの興味・関心の明確性・具体性について評価する。締切期限を設けています。初回授業の際にお伝えします。その後、manabaに反映するので必ず目を通して下さい。						
履修上の注意	大学3年生を対象とする。 ※ただし、その他の学年で聴講希望があれば、事前にキャリアセンターへ連絡すること。 20分以上の遅刻は欠席扱いにする。 講義全体の2/3の出席が確認できない場合は受講資格を失う。						
教科書	なし（必要に応じて資料を配布する）						
参考書	授業中に紹介する。企業様より提示されることも有ります。						

科目区分	キャリア系列						
科目名	キャリアデザイン研究						
担当教員	単位認定者：青谷 実知代					科目ナンバ-	Z23030
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	業界・業種を深く理解すると共に、昨今の取り組みについてゲストスピーカー（現場担当者）から直接伺い、社会の実態を理解し、主体的に就職活動を取り組める力（志望動機や自己PR、伝える力、質問力など）を養う。						
授業の概要	「職業生涯における仕事の経験の連鎖あるいはその蓄積」と定義づけられるキャリアであるが、IT化・グローバル化の進展、産業構造の変化、企業浮沈等、変革が激しい中、キャリアの本質に迫れないことも事実である。そこで、現場で実践を積んでおられる多様な業界・業種から講師をお招きし、広範囲な職業観や勤労観そして問題点を学び、自分自身の成長・発達につなげると共に、「総合知」でキャリアデザインが研究を深めていく。						
到達目標	①職場や地域で活躍する上で必要な知識を身につけることができる。（知識・理解） ②業種と業界の違いを理解し、自らの興味・関心の領域をより具体的なものとして意識することができる。（態度・志向性） ③就職活動で活かせる志望動機や自己PRが書けるようになる。（汎用的技能）						
授業計画	<p>本講義はそれぞれの講師が下記の講義項目について、1コマずつ担当するオムニバス形式による授業です。この科目はキャリア教育センターが開講するもので、学生に「各業界の現状と今後の展望」を紹介し、「各業界に必要な資質とその涵養」について理解させることを目的とします。また本年度は、各社グループ関連企業についても理解を深めてもらう。（企業の方の異動に伴い変更も有ります。随時、manabaでご連絡します）</p> <p>第1回 業界・業種研究を深めキャリアデザインを考える：青谷実知代 第2回 株式会社SHKライン 第3回 KAHAジャパン株式会社（Oxford University Innovation 日本事務所） 第4回 (株) 阪急交通社 第5回 第一生命保険株式会社 第6回 株式会社ホテルグランヴィア大阪 第7回 株式会社 サンリオ 第8回 IT関連企業 第9回 公益財団法人大阪観光局 溝畑局長 第10回 JR西日本SC開発株式会社 第11回 株式会社JR西日本コミュニケーションズ 第12回 株式会社 FM802 第13回 株式会社 西日本旅客鉄道株式会社 第14回 株式会社 i-plug 第15回 業界の様々な取り組みとキャリアデザイン（総まとめ）青谷実知代</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：日頃から新聞や各種業界雑誌を読むように心がける。関心ある業界の傾向をつかむ。【2時間】 授業後学習：学んだ企業の会社概況などを読み、企業の理解を深める。【2時間】						
授業方法	オムニバス形式の講義 【実務経験のある教員等による授業】 毎回各業界（卸小売・製造・サービス・金融等）からゲストスピーカーが、その業界の現状を伝え、就職活動で生かせる知識を指導する。						
評価基準と評価方法	・授業内での提出物（70%）：各回提出のリアクションペーパー ・事前課題レポート（30%）：業界・業種の理解度、業界に関する自らの興味・関心の明確性・具体性について評価する。事前レポートに関する締切期限は、初回の授業でお伝えします。（その後、manabaに反映します）						
履修上の注意	大学3年生を対象とする。 ※ただし、その他の学年で聴講希望があれば、事前にキャリアセンターへ連絡すること。 20分以上の遅刻は欠席扱いにする。 講義全体の2/3の出席が確認できない場合は受講資格を失う。						
教科書	なし（必要に応じて資料を配布する）						
参考書	授業中に紹介する。また、企業の方から提示されることも有ります。						

科目区分	キャリア系列						
科目名	企業・職種・業界の基礎知識						
担当教員	得田 知栄子					科目ナンバ-	Z22050
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	企業はどのような活動や経営を行っているのか、その企業の活動や経営に対し私たちはいままでどのように関わってこれからどのように関わっていくことができるのか。これらの問いに答えるために必要な経済・ビジネス・企業に関する基礎知識を習得する。						
授業の概要	<p>・私たちはモノを購入し、それを消費して日々生活しています。それができるのは、モノを生産し、その生産されたモノを私たちに届ける流通という企業の活動があるからです。この生産・流通・消費の一連のつながりを経済といい、その経済を支えるのがビジネスで、そのビジネスを担うのが企業です。企業は、日本の経済成長を実現するために特に重要な役割を担っています。</p> <p>・この企業に対して、いわゆるビジネスパーソンは、単に消費することだけでなく、働くことや投資することをも通じて関わっています。ビジネスパーソンは、自分が勤めている企業はもちろんのこと、その自分が勤めている企業と何らかの取引がある企業、さらには自分が投資する企業など、たくさんの企業との関係性を築きながら日々生きていくのです。したがって、ビジネスパーソンにとって、これらの企業とよりよい関係性を育むために、①日々流れてくる経済・ビジネス・企業に関するニュースを理解し、②そのニュースを用いて「経済や社会の大きな流れやその企業が担うビジネス（業界）の動向を把握し、その中でその企業がどのような活動や経営を行っているか」を知ることがとても大切なことなのです。</p> <p>・そして、これらのことが大切であることは、就職活動を控える学生のみならず、学生にとっても同じです。「志望する企業がどのような活動や経営を行っているか」を知ることがもちろんのこと、さらに「その企業に対してどのような仕事（職種）でどのような働き方で関わっていききたいのか」をご自身に問う必要があるからです。</p> <p>・本科目では、企業の活動や経営を理解するためにビジネスパーソンが身に付けておくべき、①企業を取り巻く経済、②その経済を支えるビジネス、③そのビジネスを担う企業、これら3つの分野に関する基礎知識について、就職活動にも活かすことができるよう厳選し、体系的に一つ一つ丁寧に説明します。また、本科目は、単に企業の活動や経営を知るで終わらせず、その一歩先、「企業を知ることは自分を知ること、働き方を考えることは生き方を考えることに、キャリアをデザインすることはご自身の人生をデザインすることにつながる」ということに意識を向けてもらうことも意図しています。人生をデザインすることは自分を経営することと同じであって、企業の経営と何ら変わることがないからです。</p>						
到達目標	<p>(1) 経済・ビジネス・企業に関する基礎知識は、企業の活動や経営を理解するために必要なものであることが分かる。【知識・理解】</p> <p>(2) ビジネスパーソンが身に付けておくべき経済・ビジネス・企業に関する基礎知識とは何かが分かる。【知識・理解】</p> <p>(3) 学んだ経済・ビジネス・企業に関する基礎知識を活かして、日々流れてくる経済・ビジネス・企業に関するニュースを理解することができる。【知識・理解】</p> <p>(4) 学んだ経済・ビジネス・企業に関する基礎知識を活かして、業界分析や企業分析を行うことができる。【知識・理解】</p> <p>(5) 学んだ経済・ビジネス・企業に関する基礎知識を活かして、企業にどのような仕事（職種）でどのような働き方で関わっていききたいのか考えるきっかけとすることができる。【態度・志向性】</p> <p>(6) 企業や社会を知るというプロセスの中で自分を知り、企業や社会の中でこれからどのように自分を活かすかのように自分を生きるのかということにまで意識を向けることができる。【態度・志向性】</p>						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション / 序論（企業を分析するフレームワーク、経済・ビジネス・企業とは何か）</p> <p>第2回 経済に関する基礎知識①：経済とは何か（経済の定義と経済を構成する5つの要素、景気とは何か）、お金はどのように流れるのか（そもそもお金とは何か、金融とは何か）、政府・日本銀行の経済政策①（インフレ/デフレとは何か、景気とインフレ/デフレの関係、日本銀行の金融政策）</p> <p>第3回 経済に関する基礎知識②：モノ・サービスの価格はどのように決まるのか（需要と供給が価格を決める、価格と物価の関係）、政府・日本銀行の経済政策②（政府の財政政策、財政政策と金融政策の関係）</p> <p>第4回 経済に関する基礎知識③：景気の良し悪しはどのように判断するのか（判断するための代表的な指標であるGDPとその他の経済指標を学ぶ、日本の景気はいいのか悪いのか）</p> <p>第5回 経済に関する基礎知識④：なぜ日本は借金大国といわれるのか（財政とは何か、日本の財政がこれほどまでに悪化した理由、税金と社会保障のしくみを学ぶ）</p> <p>第6回 ビジネスに関する基礎知識①：ビジネスとは何か（ビジネスの定義）、生産・流通・消費に関わるさまざまなビジネス①（全体像）</p> <p>第7回 ビジネスに関する基礎知識②：生産・流通・消費に関わるさまざまなビジネス②（流通とは何か）、ビジネスを捉える複数の視点、業界を分析する</p> <p>第8回 企業に関する基礎知識①：企業とは何か（企業の定義と種類、会社とは何か）、株式会社とは何か①（総論）、企業を分類する複数の視点</p> <p>第9回 企業に関する基礎知識②：株式会社とは何か②（各論）、企業の経営とは何か①（全体像、戦略論）</p> <p>第10回 企業に関する基礎知識③：企業の経営とは何か②（組織論）、企業間の結びつき</p> <p>第11回 企業に関する基礎知識④：企業の活動を分ける複数の視点、仕事（職種）とは何か</p> <p>第12回 企業を分析する①：企業を定性的に分析する（ケーススタディを通じて企業の経営を振り返る）、企業の成長戦略</p> <p>第13回 企業を分析する②：企業を定量的に分析する（企業の活動を定量的に捉えるツールである会計を学ぶ）、そもそも分析とは何か</p> <p>第14回 働き方と生き方を考える①：労働者として企業と関わる働き方と生き方</p> <p>第15回 働き方と生き方を考える②：投資家・経営者マインドをもった労働者として企業と関わる働き方と生き方 / 総まとめ</p> <p>【留意点】 受講生の理解や習得の度合い、授業の進捗などにより、内容の入れ替えや変更をすることがあります。</p>						

<p>授業外における学習（準備学習）の内容・時間</p>	<p>●授業外における日常的な学修（週1時間） ・本科目では、経済・ビジネス・企業に関する基礎知識として、たくさんの言葉を学びます。それらの言葉は、みなさんにとって当たり前のように知っている言葉であるとは限らず、中には当たり前でもないし全く知らない言葉もあるかもしれません。たとえば、①いままで見たり聞いたりしたことがあって、その意味についても知っているかと思っはいたけれど、改めて問われると思わず戸惑ってしまうような言葉、②いままで見たり聞いたりしたことはあるけれど、その意味についてまでは考えたことがなかったような言葉、③そもそもいままで見たことも聞いたこともなく、授業で初めて出会ってしまったような言葉、そんな言葉もあるかと思ひます。 ・したがって、本科目受講中は、第1回から前回までに学んだ言葉について、下記のステップを踏むことで慣れ親しみ、その意味をイメージできるご自身づくりに努めてください。 (1) 日々流れてくる経済・ビジネス・企業に関するニュースに意識を向けるようにし、その経済・ビジネス・企業に関するニュースを見聞きしたときに、「この言葉、授業で学んだな」と反応できるようになること (2) その反応した言葉について、意味が分からなければ授業資料に戻るなどして随時確認し、その言葉のイメージを少しずつ膨らませて、ご自身にとって生きた言葉となるようにゆっくりと丁寧に育てていくこと</p> <p>●授業前準備学修（学習時間：週1時間） 経済・ビジネス・企業に関する基礎知識には体系（全体像）があり、また、各回の授業と授業の間にもつながりがあります。したがって、各回の授業には、下記のことを認識できている状態で臨んでください。 (1) 経済・ビジネス・企業に関する基礎知識の体系（全体像）はどのようなものか (2) その体系（全体像）の中で、第1回から前回までの授業は、それぞれどのような位置づけにあるのか (3) 第1回から前回までの各回の授業の内容はどのようなもので、各回の授業と授業の間にはどのようなつながりがあるのか</p> <p>●授業後学修（学習時間：週2時間） ・配布した授業資料を読み込むと共に、授業で指示した資料や文献を読んだり、動画を視聴するなどして、各回の授業内容につき理解を深めてください。 ・分からないことや難しく感じることもあるかもしれませんが、それはみなさんの伸びしろでもあるのです。したがって、下記のステップを踏むことで自分なりの理解を得よう努めてください。 (1) 学ぶ中で生まれてきた感覚（≒違和感）や浮かんできた考え（≒疑問）を繊細にキャッチすること (2) キャッチした感覚や考えをできるかぎり言葉にする（≒言語化する）こと ・心や頭の中だけで感じたり考えたりしていることは、思っている以上に儂くあいまいなものです。その儂くあいまいな違和感や疑問をすばやく掴みにいき、掴んだそれらを友人や家族に投げかけて話し合ってみたり、何かに書き出して自問自答してみたりすることからはじめてください。言葉にしていこうとする中で自分の考えが整理され、疑問は少しずつ解消し違和感もどんどん小さくなってきます。その積み重ねが自分なりの理解につながっていきます。</p>
<p>授業方法</p>	<p>・各回のテーマに沿って授業資料を配布し、講義を行います。 ・PCやタブレットを用いたの受講を推奨します。</p> <p>【実務経験のある教員等による授業】 公認会計士として、会計監査・税務・コンサルティング業務を通じてさまざまな企業と関わり、経営者や社員の方々との対話を重ねることでその経営をサポートする実務経験を有しています。</p>
<p>評価基準と評価方法</p>	<p>・成績評価は、平常点とレポートにより行い、授業への参加態度（クラス貢献）や各課題への取り組み姿勢（各課題の提出状況とその内容）も含め、総合的に評価します。 (1) 平常点 50%：小テスト（各回授業内容のポイントを確認する）、リアクションペーパー（各回の授業内容を自分の言葉で整理する） (2) レポート 50%：中間レポート（業界分析を実施する）、期末レポート（企業分析を実施する） ・小テストでは主として到達目標（2）、リアクションペーパーでは到達目標（1）から（6）、中間レポートと期末レポートでは主として到達目標（3）と（4）の到達度を確認します。 ・課題に対するフィードバックは、翌週以降の授業内でお伝えしたり、manabaの掲示板に書き込みしたりするなどして、必要に応じて原則全体に対して行います。</p>
<p>履修上の注意</p>	<p>・授業にはできる限り毎回出席し、やむを得ず出席できない場合には、次回までにその内容を積極的にフォローするようにしてください。 ・出席回数が授業回数の3分の2に満たない場合は、原則単位認定を行いません。また、正当な理由のない20分以上の遅刻や早退は、原則欠席扱いとします。 ・その他の受講に際しての注意事項については、初回授業時以降、随時お伝えします。</p>
<p>教科書</p>	<p>なし</p>
<p>参考書</p>	<p>・『会社四季報 業界地図 2023年版』東洋経済新報社編、東洋経済新報社、2022年、ISBN：978-4492973318（毎年8月下旬に最新版が発売されます） ・『就職四季報（企業研究・インターンシップ版）2024年版』東洋経済新報社編、東洋経済新報社、2022年、ISBN：978-4492974360（毎年5月下旬に最新版が発売されます） ・『13歳からの経営の教科書「ビジネス」と「生き抜く力」を学べる青春物語』岩尾俊兵著、KADOKAWA、2022年、ISBN：978-4041125687 ・『15歳から学ぶお金の教養 先生、お金持ちになるにはどうしたらいいですか？』奥野一成著、ダイヤモンド社、2021年、ISBN：978-4478112533 ・高校「政治・経済」「現代社会」、高校商業科「ビジネス基礎」、中学「公民」の教科書（お手元があればぜひ活用してください） ・その他については、授業内で随時お伝えします。</p>

科目区分	キャリア系列						
科目名	企業・職種・業界の基礎知識						
担当教員	得田 知栄子					科目ナンバ-	Z22050
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	企業はどのような活動や経営を行っているのか、その企業の活動や経営に対し私たちはいままでどのように関わってこれからどのように関わっていくことができるのか。これらの問いに答えるために必要な経済・ビジネス・企業に関する基礎知識を習得する。						
授業の概要	<p>・私たちはモノを購入し、それを消費して日々生活しています。それができるのは、モノを生産し、その生産されたモノを私たちに届ける流通という企業の活動があるからです。この生産・流通・消費の一連のつながりを経済といい、その経済を支えるのがビジネスで、そのビジネスを担うのが企業です。企業は、日本の経済成長を実現するために特に重要な役割を担っています。</p> <p>・この企業に対して、いわゆるビジネスパーソンは、単に消費することだけでなく、働くことや投資することをも通じて関わっています。ビジネスパーソンは、自分が勤めている企業はもちろんのこと、その自分が勤めている企業と何らかの取引がある企業、さらには自分が投資する企業など、たくさんの企業との関係性を築きながら日々生きていくのです。したがって、ビジネスパーソンにとって、これらの企業とよりよい関係性を育むために、①日々流れてくる経済・ビジネス・企業に関するニュースを理解し、②そのニュースを用いて「経済や社会の大きな流れやその企業が担うビジネス（業界）の動向を把握し、その中でその企業がどのような活動や経営を行っているか」を知ることがとても大切なことなのです。</p> <p>・そして、これらのことが大切であることは、就職活動を控える学生のみならず、学生にとっても同じです。「志望する企業がどのような活動や経営を行っているか」を知ることがもちろんのこと、さらに「その企業に対してどのような仕事（職種）でどのような働き方で関わっていききたいのか」をご自身に問う必要があるからです。</p> <p>・本科目では、企業の活動や経営を理解するためにビジネスパーソンが身に付けておくべき、①企業を取り巻く経済、②その経済を支えるビジネス、③そのビジネスを担う企業、これら3つの分野に関する基礎知識について、就職活動にも活かすことができるよう厳選し、体系的に一つ一つ丁寧に説明します。また、本科目は、単に企業の活動や経営を知るで終わらせず、その一歩先、「企業を知ることは自分を知ること、働き方を考えることは生き方を考えることに、キャリアをデザインすることはご自身の人生をデザインすることにつながる」ということに意識を向けてもらうことも意図しています。人生をデザインすることは自分を経営することと同じであって、企業の経営と何ら変わることがないからです。</p>						
到達目標	<p>(1) 経済・ビジネス・企業に関する基礎知識は、企業の活動や経営を理解するために必要なものであることが分かる。【知識・理解】</p> <p>(2) ビジネスパーソンが身に付けておくべき経済・ビジネス・企業に関する基礎知識とは何かが分かる。【知識・理解】</p> <p>(3) 学んだ経済・ビジネス・企業に関する基礎知識を活かして、日々流れてくる経済・ビジネス・企業に関するニュースを理解することができる。【知識・理解】</p> <p>(4) 学んだ経済・ビジネス・企業に関する基礎知識を活かして、業界分析や企業分析を行うことができる。【知識・理解】</p> <p>(5) 学んだ経済・ビジネス・企業に関する基礎知識を活かして、企業にどのような仕事（職種）でどのような働き方で関わっていききたいのか考えるきっかけとすることができる。【態度・志向性】</p> <p>(6) 企業や社会を知るというプロセスの中で自分を知り、企業や社会の中でこれからどのように自分を活かすかのように自分を生きるのかということにまで意識を向けることができる。【態度・志向性】</p>						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション / 序論（企業を分析するフレームワーク、経済・ビジネス・企業とは何か）</p> <p>第2回 経済に関する基礎知識①：経済とは何か（経済の定義と経済を構成する5つの要素、景気とは何か）、お金はどのように流れるのか（そもそもお金とは何か、金融とは何か）、政府・日本銀行の経済政策①（インフレ/デフレとは何か、景気とインフレ/デフレの関係、日本銀行の金融政策）</p> <p>第3回 経済に関する基礎知識②：モノ・サービスの価格はどのように決まるのか（需要と供給が価格を決める、価格と物価の関係）、政府・日本銀行の経済政策②（政府の財政政策、財政政策と金融政策の関係）</p> <p>第4回 経済に関する基礎知識③：景気の良し悪しはどのように判断するのか（判断するための代表的な指標であるGDPとその他の経済指標を学ぶ、日本の景気はいいのか悪いのか）</p> <p>第5回 経済に関する基礎知識④：なぜ日本は借金大国といわれるのか（財政とは何か、日本の財政がこれほどまでに悪化した理由、税金と社会保障のしくみを学ぶ）</p> <p>第6回 ビジネスに関する基礎知識①：ビジネスとは何か（ビジネスの定義）、生産・流通・消費に関わるさまざまなビジネス①（全体像）</p> <p>第7回 ビジネスに関する基礎知識②：生産・流通・消費に関わるさまざまなビジネス②（流通とは何か）、ビジネスを捉える複数の視点、業界を分析する</p> <p>第8回 企業に関する基礎知識①：企業とは何か（企業の定義と種類、会社とは何か）、株式会社とは何か①（総論）、企業を分類する複数の視点</p> <p>第9回 企業に関する基礎知識②：株式会社とは何か②（各論）、企業の経営とは何か①（全体像、戦略論）</p> <p>第10回 企業に関する基礎知識③：企業の経営とは何か②（組織論）、企業間の結びつき</p> <p>第11回 企業に関する基礎知識④：企業の活動を分ける複数の視点、仕事（職種）とは何か</p> <p>第12回 企業を分析する①：企業を定性的に分析する（ケーススタディを通じて企業の経営を振り返る）、企業の成長戦略</p> <p>第13回 企業を分析する②：企業を定量的に分析する（企業の活動を定量的に捉えるツールである会計を学ぶ）、そもそも分析とは何か</p> <p>第14回 働き方と生き方を考える①：労働者として企業と関わる働き方と生き方</p> <p>第15回 働き方と生き方を考える②：投資家・経営者マインドをもった労働者として企業と関わる働き方と生き方 / 総まとめ</p> <p>【留意点】 受講生の理解や習得の度合い、授業の進捗などにより、内容の入れ替えや変更をすることがあります。</p>						

<p>授業外における学習（準備学習）の内容・時間</p>	<p>●授業外における日常的な学修（週1時間） ・本科目では、経済・ビジネス・企業に関する基礎知識として、たくさんの言葉を学びます。それらの言葉は、みなさんにとって当たり前のように知っている言葉であるとは限らず、中には当たり前でもないし全く知らない言葉もあるかもしれません。たとえば、①いままで見たり聞いたりしたことがあって、その意味についても知っているかと思っはいたけれど、改めて問われると思わず戸惑ってしまうような言葉、②いままで見たり聞いたりしたことはあるけれど、その意味についてまでは考えたことがなかったような言葉、③そもそもいままで見たことも聞いたこともなく、授業で初めて出会ってしまったような言葉、そんな言葉もあるかと思ひます。 ・したがって、本科目受講中は、第1回から前回までに学んだ言葉について、下記のステップを踏むことで慣れ親しみ、その意味をイメージできるご自身づくりに努めてください。 (1) 日々流れてくる経済・ビジネス・企業に関するニュースに意識を向けるようにし、その経済・ビジネス・企業に関するニュースを見聞きしたときに、「この言葉、授業で学んだな」と反応できるようになること (2) その反応した言葉について、意味が分からなければ授業資料に戻るなどして随時確認し、その言葉のイメージを少しずつ膨らませて、ご自身にとって生きた言葉となるようにゆっくりと丁寧に育てていくこと</p> <p>●授業前準備学修（学習時間：週1時間） 経済・ビジネス・企業に関する基礎知識には体系（全体像）があり、また、各回の授業と授業の間にもつながりがあります。したがって、各回の授業には、下記のことを認識できている状態で臨んでください。 (1) 経済・ビジネス・企業に関する基礎知識の体系（全体像）はどのようなものか (2) その体系（全体像）の中で、第1回から前回までの授業は、それぞれどのような位置づけにあるのか (3) 第1回から前回までの各回の授業の内容はどのようなもので、各回の授業と授業の間にはどのようなつながりがあるのか</p> <p>●授業後学修（学習時間：週2時間） ・配布した授業資料を読み込むと共に、授業で指示した資料や文献を読んだり、動画を視聴するなどして、各回の授業内容につき理解を深めてください。 ・分からないことや難しく感じることもあるかもしれませんが、それはみなさんの伸びしろでもあるのです。したがって、下記のステップを踏むことで自分なりの理解を得よう努めてください。 (1) 学ぶ中で生まれてきた感覚（≒違和感）や浮かんできた考え（≒疑問）を繊細にキャッチすること (2) キャッチした感覚や考えをできるかぎり言葉にする（≒言語化する）こと ・心や頭の中だけで感じたり考えたりしていることは、思っている以上に儂くあいまいなものです。その儂くあいまいな違和感や疑問をすばやく掴みにいき、掴んだそれらを友人や家族に投げかけて話し合ってみたり、何か書き出して自問自答してみたりすることからはじめてください。言葉にしていこうとする中で自分の考えが整理され、疑問は少しずつ解消し違和感もどんどん小さくなってきます。その積み重ねが自分なりの理解につながっていきます。</p>
<p>授業方法</p>	<p>・各回のテーマに沿って授業資料を配布し、講義を行います。 ・PCやタブレットを用いたの受講を推奨します。</p> <p>【実務経験のある教員等による授業】 公認会計士として、会計監査・税務・コンサルティング業務を通じてさまざまな企業と関わり、経営者や社員の方々との対話を重ねることでその経営をサポートする実務経験を有しています。</p>
<p>評価基準と評価方法</p>	<p>・成績評価は、平常点とレポートにより行い、授業への参加態度（クラス貢献）や各課題への取り組み姿勢（各課題の提出状況とその内容）も含め、総合的に評価します。 (1) 平常点 50%：小テスト（各回授業内容のポイントを確認する）、リアクションペーパー（各回の授業内容を自分の言葉で整理する） (2) レポート 50%：中間レポート（業界分析を実施する）、期末レポート（企業分析を実施する） ・小テストでは主として到達目標（2）、リアクションペーパーでは到達目標（1）から（6）、中間レポートと期末レポートでは主として到達目標（3）と（4）の到達度を確認します。 ・課題に対するフィードバックは、翌週以降の授業内でお伝えしたり、manabaの掲示板に書き込みしたりするなどして、必要に応じて原則全体に対して行います。</p>
<p>履修上の注意</p>	<p>・授業にはできる限り毎回出席し、やむを得ず出席できない場合には、次回までにその内容を積極的にフォローするようにしてください。 ・出席回数が授業回数の3分の2に満たない場合は、原則単位認定を行いません。また、正当な理由のない20分以上の遅刻や早退は、原則欠席扱いとします。 ・その他の受講に際しての注意事項については、初回授業時以降、随時お伝えします。</p>
<p>教科書</p>	<p>なし</p>
<p>参考書</p>	<p>・『会社四季報 業界地図 2023年版』東洋経済新報社編、東洋経済新報社、2022年、ISBN：978-4492973318（毎年8月下旬に最新版が発売されます） ・『就職四季報（企業研究・インターンシップ版）2024年版』東洋経済新報社編、東洋経済新報社、2022年、ISBN：978-4492974360（毎年5月下旬に最新版が発売されます） ・『13歳からの経営の教科書「ビジネス」と「生き抜く力」を学べる青春物語』岩尾俊兵著、KADOKAWA、2022年、ISBN：978-4041125687 ・『15歳から学ぶお金の教養 先生、お金持ちになるにはどうしたらいいですか？』奥野一成著、ダイヤモンド社、2021年、ISBN：978-4478112533 ・高校「政治・経済」「現代社会」、高校商業科「ビジネス基礎」、中学「公民」の教科書（お手元があればぜひ活用してください） ・その他については、授業内で随時お伝えします。</p>

科目区分	キャリア系列						
科目名	企業・職種・業界の基礎知識						
担当教員	得田 知栄子					科目ナンバ-	Z22050
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	企業はどのような活動や経営を行っているのか、その企業の活動や経営に対し私たちはいままでどのように関わってこれからどのように関わっていくことができるのか。これらの問いに答えるために必要な経済・ビジネス・企業に関する基礎知識を習得する。						
授業の概要	<p>・私たちはモノを購入し、それを消費して日々生活しています。それができるのは、モノを生産し、その生産されたモノを私たちに届ける流通という企業の活動があるからです。この生産・流通・消費の一連のつながりを経済といい、その経済を支えるのがビジネスで、そのビジネスを担うのが企業です。企業は、日本の経済成長を実現するために特に重要な役割を担っています。</p> <p>・この企業に対して、いわゆるビジネスパーソンは、単に消費することだけでなく、働くことや投資することをも通じて関わっています。ビジネスパーソンは、自分が勤めている企業はもちろんのこと、その自分が勤めている企業と何らかの取引がある企業、さらには自分が投資する企業など、たくさんの企業との関係性を築きながら日々生きていくのです。したがって、ビジネスパーソンにとって、これらの企業とよりよい関係性を育むために、①日々流れてくる経済・ビジネス・企業に関するニュースを理解し、②そのニュースを用いて「経済や社会の大きな流れやその企業が担うビジネス（業界）の動向を把握し、その中でその企業がどのような活動や経営を行っているか」を知ることがとても大切なことなのです。</p> <p>・そして、これらのことが大切であることは、就職活動を控える学生のみならず、学生にとっても同じです。「志望する企業がどのような活動や経営を行っているか」を知ることがもちろんのこと、さらに「その企業に対してどのような仕事（職種）でどのような働き方で関わっていききたいのか」をご自身に問う必要があるからです。</p> <p>・本科目では、企業の活動や経営を理解するためにビジネスパーソンが身に付けておくべき、①企業を取り巻く経済、②その経済を支えるビジネス、③そのビジネスを担う企業、これら3つの分野に関する基礎知識について、就職活動にも活かすことができるよう厳選し、体系的に一つ一つ丁寧に説明します。また、本科目は、単に企業の活動や経営を知るで終わらせず、その一歩先、「企業を知ることは自分を知ること、働き方を考えることは生き方を考えることに、キャリアをデザインすることはご自身の人生をデザインすることにつながる」ということに意識を向けてもらうことも意図しています。人生をデザインすることは自分を経営することと同じであって、企業の経営と何ら変わることがないからです。</p>						
到達目標	<p>(1) 経済・ビジネス・企業に関する基礎知識は、企業の活動や経営を理解するために必要なものであることが分かる。【知識・理解】</p> <p>(2) ビジネスパーソンが身に付けておくべき経済・ビジネス・企業に関する基礎知識とは何かが分かる。【知識・理解】</p> <p>(3) 学んだ経済・ビジネス・企業に関する基礎知識を活かして、日々流れてくる経済・ビジネス・企業に関するニュースを理解することができる。【知識・理解】</p> <p>(4) 学んだ経済・ビジネス・企業に関する基礎知識を活かして、業界分析や企業分析を行うことができる。【知識・理解】</p> <p>(5) 学んだ経済・ビジネス・企業に関する基礎知識を活かして、企業にどのような仕事（職種）でどのような働き方で関わっていききたいのか考えるきっかけとすることができる。【態度・志向性】</p> <p>(6) 企業や社会を知るというプロセスの中で自分を知り、企業や社会の中でこれからどのように自分を活かすかのように自分を生きるのかということにまで意識を向けることができる。【態度・志向性】</p>						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション / 序論（企業を分析するフレームワーク、経済・ビジネス・企業とは何か）</p> <p>第2回 経済に関する基礎知識①：経済とは何か（経済の定義と経済を構成する5つの要素、景気とは何か）、お金はどのように流れるのか（そもそもお金とは何か、金融とは何か）、政府・日本銀行の経済政策①（インフレ/デフレとは何か、景気とインフレ/デフレの関係、日本銀行の金融政策）</p> <p>第3回 経済に関する基礎知識②：モノ・サービスの価格はどのように決まるのか（需要と供給が価格を決める、価格と物価の関係）、政府・日本銀行の経済政策②（政府の財政政策、財政政策と金融政策の関係）</p> <p>第4回 経済に関する基礎知識③：景気の良し悪しはどのように判断するのか（判断するための代表的な指標であるGDPとその他の経済指標を学ぶ、日本の景気はいいのか悪いのか）</p> <p>第5回 経済に関する基礎知識④：なぜ日本は借金大国といわれるのか（財政とは何か、日本の財政がこれほどまでに悪化した理由、税金と社会保障のしくみを学ぶ）</p> <p>第6回 ビジネスに関する基礎知識①：ビジネスとは何か（ビジネスの定義）、生産・流通・消費に関わるさまざまなビジネス①（全体像）</p> <p>第7回 ビジネスに関する基礎知識②：生産・流通・消費に関わるさまざまなビジネス②（流通とは何か）、ビジネスを捉える複数の視点、業界を分析する</p> <p>第8回 企業に関する基礎知識①：企業とは何か（企業の定義と種類、会社とは何か）、株式会社とは何か①（総論）、企業を分類する複数の視点</p> <p>第9回 企業に関する基礎知識②：株式会社とは何か②（各論）、企業の経営とは何か①（全体像、戦略論）</p> <p>第10回 企業に関する基礎知識③：企業の経営とは何か②（組織論）、企業間の結びつき</p> <p>第11回 企業に関する基礎知識④：企業の活動を分ける複数の視点、仕事（職種）とは何か</p> <p>第12回 企業を分析する①：企業を定性的に分析する（ケーススタディを通じて企業の経営を振り返る）、企業の成長戦略</p> <p>第13回 企業を分析する②：企業を定量的に分析する（企業の活動を定量的に捉えるツールである会計を学ぶ）、そもそも分析とは何か</p> <p>第14回 働き方と生き方を考える①：労働者として企業と関わる働き方と生き方</p> <p>第15回 働き方と生き方を考える②：投資家・経営者マインドをもった労働者として企業と関わる働き方と生き方 / 総まとめ</p> <p>【留意点】 受講生の理解や習得の度合い、授業の進捗などにより、内容の入れ替えや変更をすることがあります。</p>						

<p>授業外における学習（準備学習）の内容・時間</p>	<p>●授業外における日常的な学修（週1時間） ・本科目では、経済・ビジネス・企業に関する基礎知識として、たくさんの言葉を学びます。それらの言葉は、みなさんにとって当たり前のように知っている言葉であるとは限らず、中には当たり前でもないし全く知らない言葉もあるかもしれません。たとえば、①いままで見たり聞いたりしたことがあって、その意味についても知っているかと思っはいたけれど、改めて問われると思わず戸惑ってしまうような言葉、②いままで見たり聞いたりしたことはあるけれど、その意味についてまでは考えたことがなかったような言葉、③そもそもいままで見たことも聞いたこともなく、授業で初めて出会ってしまったような言葉、そんな言葉もあるかと思ひます。 ・したがって、本科目受講中は、第1回から前回までに学んだ言葉について、下記のステップを踏むことで慣れ親しみ、その意味をイメージできるご自身づくりに努めてください。 (1) 日々流れてくる経済・ビジネス・企業に関するニュースに意識を向けるようにし、その経済・ビジネス・企業に関するニュースを見聞きしたときに、「この言葉、授業で学んだな」と反応できるようになること (2) その反応した言葉について、意味が分からなければ授業資料に戻るなどして随時確認し、その言葉のイメージを少しずつ膨らませて、ご自身にとって生きた言葉となるようにゆっくりと丁寧に育てていくこと</p> <p>●授業前準備学修（学習時間：週1時間） 経済・ビジネス・企業に関する基礎知識には体系（全体像）があり、また、各回の授業と授業の間にもつながりがあります。したがって、各回の授業には、下記のことを認識できている状態で臨んでください。 (1) 経済・ビジネス・企業に関する基礎知識の体系（全体像）はどのようなものか (2) その体系（全体像）の中で、第1回から前回までの授業は、それぞれどのような位置づけにあるのか (3) 第1回から前回までの各回の授業の内容はどのようなもので、各回の授業と授業の間にはどのようなつながりがあるのか</p> <p>●授業後学修（学習時間：週2時間） ・配布した授業資料を読み込むと共に、授業で指示した資料や文献を読んだり、動画を視聴するなどして、各回の授業内容につき理解を深めてください。 ・分からないことや難しく感じることもあるかもしれませんが、それはみなさんの伸びしろでもあるのです。したがって、下記のステップを踏むことで自分なりの理解を得よう努めてください。 (1) 学ぶ中で生まれてきた感覚（≒違和感）や浮かんできた考え（≒疑問）を繊細にキャッチすること (2) キャッチした感覚や考えをできるかぎり言葉にする（≒言語化する）こと ・心や頭の中だけで感じたり考えたりしていることは、思っている以上に儂くあいまいなものです。その儂くあいまいな違和感や疑問をすばやく掴みにいき、掴んだそれらを友人や家族に投げかけて話し合ってみたり、何かに書き出して自問自答してみたりすることからはじめてください。言葉にしていこうとする中で自分の考えが整理され、疑問は少しずつ解消し違和感もどんどん小さくなってきます。その積み重ねが自分なりの理解につながっていきます。</p>
<p>授業方法</p>	<p>・各回のテーマに沿って授業資料を配布し、講義を行います。 ・PCやタブレットを用いたの受講を推奨します。</p> <p>【実務経験のある教員等による授業】 公認会計士として、会計監査・税務・コンサルティング業務を通じてさまざまな企業と関わり、経営者や社員の方々との対話を重ねることでその経営をサポートする実務経験を有しています。</p>
<p>評価基準と評価方法</p>	<p>・成績評価は、平常点とレポートにより行い、授業への参加態度（クラス貢献）や各課題への取り組み姿勢（各課題の提出状況とその内容）も含め、総合的に評価します。 (1) 平常点 50%：小テスト（各回授業内容のポイントを確認する）、リアクションペーパー（各回の授業内容を自分の言葉で整理する） (2) レポート 50%：中間レポート（業界分析を実施する）、期末レポート（企業分析を実施する） ・小テストでは主として到達目標（2）、リアクションペーパーでは到達目標（1）から（6）、中間レポートと期末レポートでは主として到達目標（3）と（4）の到達度を確認します。 ・課題に対するフィードバックは、翌週以降の授業内でお伝えしたり、manabaの掲示板に書き込みしたりするなどして、必要に応じて原則全体に対して行います。</p>
<p>履修上の注意</p>	<p>・授業にはできる限り毎回出席し、やむを得ず出席できない場合には、次回までにその内容を積極的にフォローするようにしてください。 ・出席回数が授業回数の3分の2に満たない場合は、原則単位認定を行いません。また、正当な理由のない20分以上の遅刻や早退は、原則欠席扱いとします。 ・その他の受講に際しての注意事項については、初回授業時以降、随時お伝えします。</p>
<p>教科書</p>	<p>なし</p>
<p>参考書</p>	<p>・『会社四季報 業界地図 2023年版』東洋経済新報社編、東洋経済新報社、2022年、ISBN：978-4492973318（毎年8月下旬に最新版が発売されます） ・『就職四季報（企業研究・インターンシップ版）2024年版』東洋経済新報社編、東洋経済新報社、2022年、ISBN：978-4492974360（毎年5月下旬に最新版が発売されます） ・『13歳からの経営の教科書「ビジネス」と「生き抜く力」を学べる青春物語』岩尾俊兵著、KADOKAWA、2022年、ISBN：978-4041125687 ・『15歳から学ぶお金の教養 先生、お金持ちになるにはどうしたらいいですか？』奥野一成著、ダイヤモンド社、2021年、ISBN：978-4478112533 ・高校「政治・経済」「現代社会」、高校商業科「ビジネス基礎」、中学「公民」の教科書（お手元があればぜひ活用してください） ・その他については、授業内で随時お伝えします。</p>

科目区分	キャリア系列						
科目名	企業・職種・業界の基礎知識						
担当教員	得田 知栄子					科目ナンバ-	Z22050
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	企業はどのような活動や経営を行っているのか、その企業の活動や経営に対し私たちはいままでどのように関わってこれからどのように関わっていくことができるのか。これらの問いに答えるために必要な経済・ビジネス・企業に関する基礎知識を習得する。						
授業の概要	<p>・私たちはモノを購入し、それを消費して日々生活しています。それができるのは、モノを生産し、その生産されたモノを私たちに届ける流通という企業の活動があるからです。この生産・流通・消費の一連のつながりを経済といい、その経済を支えるのがビジネスで、そのビジネスを担うのが企業です。企業は、日本の経済成長を実現するために特に重要な役割を担っています。</p> <p>・この企業に対して、いわゆるビジネスパーソンは、単に消費することだけでなく、働くことや投資することをも通じて関わっています。ビジネスパーソンは、自分が勤めている企業はもちろんのこと、その自分が勤めている企業と何らかの取引がある企業、さらには自分が投資する企業など、たくさんの企業との関係性を築きながら日々生きていくのです。したがって、ビジネスパーソンにとって、これらの企業とよりよい関係性を育むために、①日々流れてくる経済・ビジネス・企業に関するニュースを理解し、②そのニュースを用いて「経済や社会の大きな流れやその企業が担うビジネス（業界）の動向を把握し、その中でその企業がどのような活動や経営を行っているか」を知ることがとても大切なことなのです。</p> <p>・そして、これらのことが大切であることは、就職活動を控える学生のみならず、学生にとっても同じです。「志望する企業がどのような活動や経営を行っているか」を知ることがもちろんのこと、さらに「その企業に対してどのような仕事（職種）でどのような働き方で関わっていききたいのか」をご自身に問う必要があるからです。</p> <p>・本科目では、企業の活動や経営を理解するためにビジネスパーソンが身に付けておくべき、①企業を取り巻く経済、②その経済を支えるビジネス、③そのビジネスを担う企業、これら3つの分野に関する基礎知識について、就職活動にも活かすことができるよう厳選し、体系的に一つ一つ丁寧に説明します。また、本科目は、単に企業の活動や経営を知るで終わらせず、その一歩先、「企業を知ることは自分を知ること、働き方を考えることは生き方を考えることに、キャリアをデザインすることはご自身の人生をデザインすることにつながる」ということに意識を向けてもらうことも意図しています。人生をデザインすることは自分を経営することと同じであって、企業の経営と何ら変わることがないからです。</p>						
到達目標	<p>(1) 経済・ビジネス・企業に関する基礎知識は、企業の活動や経営を理解するために必要なものであることが分かる。【知識・理解】</p> <p>(2) ビジネスパーソンが身に付けておくべき経済・ビジネス・企業に関する基礎知識とは何かが分かる。【知識・理解】</p> <p>(3) 学んだ経済・ビジネス・企業に関する基礎知識を活かして、日々流れてくる経済・ビジネス・企業に関するニュースを理解することができる。【知識・理解】</p> <p>(4) 学んだ経済・ビジネス・企業に関する基礎知識を活かして、業界分析や企業分析を行うことができる。【知識・理解】</p> <p>(5) 学んだ経済・ビジネス・企業に関する基礎知識を活かして、企業にどのような仕事（職種）でどのような働き方で関わっていききたいのか考えるきっかけとすることができる。【態度・志向性】</p> <p>(6) 企業や社会を知るというプロセスの中で自分を知り、企業や社会の中でこれからどのように自分を活かすかのように自分を生きるのかということにまで意識を向けることができる。【態度・志向性】</p>						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション / 序論（企業を分析するフレームワーク、経済・ビジネス・企業とは何か）</p> <p>第2回 経済に関する基礎知識①：経済とは何か（経済の定義と経済を構成する5つの要素、景気とは何か）、お金はどのように流れるのか（そもそもお金とは何か、金融とは何か）、政府・日本銀行の経済政策①（インフレ/デフレとは何か、景気とインフレ/デフレの関係、日本銀行の金融政策）</p> <p>第3回 経済に関する基礎知識②：モノ・サービスの価格はどのように決まるのか（需要と供給が価格を決める、価格と物価の関係）、政府・日本銀行の経済政策②（政府の財政政策、財政政策と金融政策の関係）</p> <p>第4回 経済に関する基礎知識③：景気の良し悪しはどのように判断するのか（判断するための代表的な指標であるGDPとその他の経済指標を学ぶ、日本の景気はいいのか悪いのか）</p> <p>第5回 経済に関する基礎知識④：なぜ日本は借金大国といわれるのか（財政とは何か、日本の財政がこれほどまでに悪化した理由、税金と社会保障のしくみを学ぶ）</p> <p>第6回 ビジネスに関する基礎知識①：ビジネスとは何か（ビジネスの定義）、生産・流通・消費に関わるさまざまなビジネス①（全体像）</p> <p>第7回 ビジネスに関する基礎知識②：生産・流通・消費に関わるさまざまなビジネス②（流通とは何か）、ビジネスを捉える複数の視点、業界を分析する</p> <p>第8回 企業に関する基礎知識①：企業とは何か（企業の定義と種類、会社とは何か）、株式会社とは何か①（総論）、企業を分類する複数の視点</p> <p>第9回 企業に関する基礎知識②：株式会社とは何か②（各論）、企業の経営とは何か①（全体像、戦略論）</p> <p>第10回 企業に関する基礎知識③：企業の経営とは何か②（組織論）、企業間の結びつき</p> <p>第11回 企業に関する基礎知識④：企業の活動を分ける複数の視点、仕事（職種）とは何か</p> <p>第12回 企業を分析する①：企業を定性的に分析する（ケーススタディを通じて企業の経営を振り返る）、企業の成長戦略</p> <p>第13回 企業を分析する②：企業を定量的に分析する（企業の活動を定量的に捉えるツールである会計を学ぶ）、そもそも分析とは何か</p> <p>第14回 働き方と生き方を考える①：労働者として企業と関わる働き方と生き方</p> <p>第15回 働き方と生き方を考える②：投資家・経営者マインドをもった労働者として企業と関わる働き方と生き方 / 総まとめ</p> <p>【留意点】 受講生の理解や習得の度合い、授業の進捗などにより、内容の入れ替えや変更をすることがあります。</p>						

<p>授業外における学習（準備学習）の内容・時間</p>	<p>●授業外における日常的な学修（週1時間） ・本科目では、経済・ビジネス・企業に関する基礎知識として、たくさんの言葉を学びます。それらの言葉は、みなさんにとって当たり前のように知っている言葉であるとは限らず、中には当たり前でもないし全く知らない言葉もあるかもしれません。たとえば、①いままで見たり聞いたりしたことがあって、その意味についても知っているかと思っはいたけれど、改めて問われると思わず戸惑ってしまうような言葉、②いままで見たり聞いたりしたことはあるけれど、その意味についてまでは考えたことがなかったような言葉、③そもそもいままで見たことも聞いたこともなく、授業で初めて出会ってしまったような言葉、そんな言葉もあるかと思ひます。 ・したがって、本科目受講中は、第1回から前回までに学んだ言葉について、下記のステップを踏むことで慣れ親しみ、その意味をイメージできるご自身づくりに努めてください。 (1) 日々流れてくる経済・ビジネス・企業に関するニュースに意識を向けるようにし、その経済・ビジネス・企業に関するニュースを見聞きしたときに、「この言葉、授業で学んだな」と反応できるようになること (2) その反応した言葉について、意味が分からなければ授業資料に戻るなどして随時確認し、その言葉のイメージを少しずつ膨らませて、ご自身にとって生きた言葉となるようにゆっくりと丁寧に育てていくこと</p> <p>●授業前準備学修（学習時間：週1時間） 経済・ビジネス・企業に関する基礎知識には体系（全体像）があり、また、各回の授業と授業の間にもつながりがあります。したがって、各回の授業には、下記のことを認識できている状態で臨んでください。 (1) 経済・ビジネス・企業に関する基礎知識の体系（全体像）はどのようなものか (2) その体系（全体像）の中で、第1回から前回までの授業は、それぞれどのような位置づけにあるのか (3) 第1回から前回までの各回の授業の内容はどのようなもので、各回の授業と授業の間にはどのようなつながりがあるのか</p> <p>●授業後学修（学習時間：週2時間） ・配布した授業資料を読み込むと共に、授業で指示した資料や文献を読んだり、動画を視聴するなどして、各回の授業内容につき理解を深めてください。 ・分からないことや難しく感じることもあるかもしれませんが、それはみなさんの伸びしろでもあるのです。したがって、下記のステップを踏むことで自分なりの理解を得よう努めてください。 (1) 学ぶ中で生まれてきた感覚（≒違和感）や浮かんできた考え（≒疑問）を繊細にキャッチすること (2) キャッチした感覚や考えをできるかぎり言葉にする（≒言語化する）こと ・心や頭の中だけで感じたり考えたりしていることは、思っている以上に儂くあいまいなものです。その儂くあいまいな違和感や疑問をすばやく掴みにいき、掴んだそれらを友人や家族に投げかけて話し合ってみたり、何か書き出して自問自答してみたりすることからはじめてください。言葉にしていこうとする中で自分の考えが整理され、疑問は少しずつ解消し違和感もどんどん小さくなってきます。その積み重ねが自分なりの理解につながっていきます。</p>
<p>授業方法</p>	<p>・各回のテーマに沿って授業資料を配布し、講義を行います。 ・PCやタブレットを用いたの受講を推奨します。</p> <p>【実務経験のある教員等による授業】 公認会計士として、会計監査・税務・コンサルティング業務を通じてさまざまな企業と関わり、経営者や社員の方々との対話を重ねることでその経営をサポートする実務経験を有しています。</p>
<p>評価基準と評価方法</p>	<p>・成績評価は、平常点とレポートにより行い、授業への参加態度（クラス貢献）や各課題への取り組み姿勢（各課題の提出状況とその内容）も含め、総合的に評価します。 (1) 平常点 50%：小テスト（各回授業内容のポイントを確認する）、リアクションペーパー（各回の授業内容を自分の言葉で整理する） (2) レポート 50%：中間レポート（業界分析を実施する）、期末レポート（企業分析を実施する） ・小テストでは主として到達目標（2）、リアクションペーパーでは到達目標（1）から（6）、中間レポートと期末レポートでは主として到達目標（3）と（4）の到達度を確認します。 ・課題に対するフィードバックは、翌週以降の授業内でお伝えしたり、manabaの掲示板に書き込みしたりするなどして、必要に応じて原則全体に対して行います。</p>
<p>履修上の注意</p>	<p>・授業にはできる限り毎回出席し、やむを得ず出席できない場合には、次回までにその内容を積極的にフォローするようにしてください。 ・出席回数が授業回数の3分の2に満たない場合は、原則単位認定を行いません。また、正当な理由のない20分以上の遅刻や早退は、原則欠席扱いとします。 ・その他の受講に際しての注意事項については、初回授業時以降、随時お伝えします。</p>
<p>教科書</p>	<p>なし</p>
<p>参考書</p>	<p>・『会社四季報 業界地図 2023年版』東洋経済新報社編、東洋経済新報社、2022年、ISBN：978-4492973318（毎年8月下旬に最新版が発売されます） ・『就職四季報（企業研究・インターンシップ版）2024年版』東洋経済新報社編、東洋経済新報社、2022年、ISBN：978-4492974360（毎年5月下旬に最新版が発売されます） ・『13歳からの経営の教科書「ビジネス」と「生き抜く力」を学べる青春物語』岩尾俊兵著、KADOKAWA、2022年、ISBN：978-4041125687 ・『15歳から学ぶお金の教養 先生、お金持ちになるにはどうしたらいいですか？』奥野一成著、ダイヤモンド社、2021年、ISBN：978-4478112533 ・高校「政治・経済」「現代社会」、高校商業科「ビジネス基礎」、中学「公民」の教科書（お手元があればぜひ活用してください） ・その他については、授業内で随時お伝えします。</p>

科目区分	キャリア系列						
科目名	企業・職種・業界の基礎知識						
担当教員	中村 智佐					科目ナンバ-	Z22050
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	企業を知るといふ大きなテーマのもと、企業の活動や経営を理解するために必要な経済・ビジネス・企業に関する基本的な知識を習得する。						
授業の概要	<p>・私たちはモノを購入し、それを消費して日々生活しています。それができるのは、モノを生産し、その生産されたモノを私たちに届ける流通という企業の活動があるからです。この生産・流通・消費の一連のつながりを経済といい、その経済を支えるのがビジネスで、そのビジネスを担うのが企業です。企業は、日本の経済成長を実現するために特に重要な役割を担っています。</p> <p>・この企業に対して、いわゆるビジネスパーソンは、消費することだけでなく、働くことや投資することをも通じて関わっています。ビジネスパーソンは、自分が勤めている企業はもちろんのこと、その自分が勤めている企業と何らかの取引がある企業、さらには自分が投資する企業など、たくさんの企業との関係性を築きながら日々生きていくのです。したがって、ビジネスパーソンにとって、これらの企業とよりよい関係性を育むために、①日々流れてくる経済・ビジネス・企業に関するニュースを理解し、②そのニュースを用いて「経済の大きな流れやその企業が担うビジネスが属する業界の動向を把握し、その中でその企業がどのような活動や経営を行っているか」を知ることはとても大切なことなのです。</p> <p>・そして、これらのことが大切であることは、就職活動を控える学生のみならず、就活を終った学生にとっても同じです。「志望する企業がどのような活動や経営を行っているか」を知ることはもちろんのこと、知った上でさらに「その企業に対してどのような仕事（職種）でどのような働き方で関わっていきたいのか」をご自身に問う必要があるからです。企業を知ることは自分を知ること、働き方を考えることは生き方を考えることに、キャリアをデザインすることは人生をデザインすることにつながります。</p> <p>・本科目では、企業を知るといふ大きなテーマのもと、企業の活動や経営を理解するためにビジネスパーソンが身に付けておくべき、①企業を取り巻く経済、②その経済を支えるビジネス、③そのビジネスを担う企業、この3つに関する基本的な知識について、就職活動にも活かすことができるように厳選し、体系的に一つ一つ丁寧に説明します。</p>						
到達目標	<p>(1) 経済・ビジネス・企業に関する基本的な知識は、企業の活動や経営を理解するために必要なものであることが分かる。【知識・理解】</p> <p>(2) ビジネスパーソンが身に付けておくべき経済・ビジネス・企業に関する基本的な知識とは何かが分かる。【知識・理解】</p> <p>(3) 学んだ経済・ビジネス・企業に関する基本的な知識を用いて、日々流れてくる経済・ビジネス・企業に関するニュースを理解することができる。【知識・理解】</p> <p>(4) 学んだ経済・ビジネス・企業に関する基本的な知識をどのように活かしていくことができるのか、イメージすることができる。【知識・理解】</p> <p>(5) 企業を知るといふプロセスの中で、企業そのものや企業と社会との関係性についてだけでなく、企業と自分との関係性、企業を含む社会と自分との関係性についてまで思いを巡らせることで、自分を知ったり、自分の生き方や人生を考えたりするきっかけとすることができる。【態度・志向性】</p>						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション / 序論（企業を分析するフレームワーク、経済とは何か、ビジネスとは何か、企業とは何か）</p> <p>第2回 経済に関する基礎知識①：そもそもお金とは何か、金融とは何か、景気とは何か、インフレ・デフレとは何か（物価・金利）、景気とインフレ・デフレに対する政府の経済政策①（日本銀行の金融政策）</p> <p>第3回 経済に関する基礎知識②：経済における基本的な考え方（需要と供給）、景気とインフレ・デフレに対する政府の経済政策②（日本政府の財政政策）、為替</p> <p>第4回 経済に関する基礎知識③：景気を把握する（GDPその他の経済指標）、日本の経済状況を検討する</p> <p>第5回 経済に関する基礎知識④：日本政府の財政状況を検討する、税金のしくみ、社会保障のしくみ</p> <p>第6回 ビジネスに関する基礎知識①：ビジネスとは何か（生産、流通）</p> <p>第7回 ビジネスに関する基礎知識②：ビジネスを捉えるフレームワーク、業界を分析する</p> <p>第8回 企業に関する基礎知識①：企業とは何か、企業を分類する複数の視点</p> <p>第9回 企業に関する基礎知識②：株式会社とは何か、企業の経営とは何か①</p> <p>第10回 企業に関する基礎知識③：企業の経営とは何か②（経営組織）、企業間の結びつき</p> <p>第11回 企業に関する基礎知識④：企業の活動を分ける複数の視点、仕事（職種）とは何か</p> <p>第12回 企業を分析する①：企業を定性的に分析する（ケーススタディを通じて企業の経営を振り返る）</p> <p>第13回 企業を分析する②：企業を定量的に分析する（企業の活動を定量的に捉えるツールである会計を学ぶ）</p> <p>第14回 働き方と生き方を考える①：労働者として企業と関わる生き方</p> <p>第15回 働き方と生き方を考える②：総まとめ</p> <p>【留意点】 受講生の理解や習得の度合い、授業の進捗などにより、内容の入れ替えや変更をする可能性があります。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>●授業外における日常的な学習（週1時間）</p> <p>・本科目では、経済・ビジネス・企業に関する基本的な知識として、たくさんの言葉を学びます。それらの言葉は、みなさんにとって当たり前に知っている言葉ばかりだけではなく、中には当たり前でもない全く知らない言葉もあるかもしれません。①いままで見たり聞いたりしたことがあって知っていると思っただけだけれど、その意味について改めて問われると思わず戸惑ってしまうような言葉、②いままで見たり聞いたりしたことはあるけれど、その意味についてまでは考えたことがなかったような言葉、③そもそもいままで見たり聞いたりしたこともなく、授業で初めて出会ってしまったような言葉、そんな言葉もあるかと思えます。</p> <p>・したがって、本科目受講中は、第1回から前回までに学んだ言葉について、下記のステップを踏むことで慣れ親しみ、その意味をイメージできるご自身づくりに努めてください。</p> <p>(1) 日々流れてくる経済・ビジネス・企業に関するニュースに意識を向けるようにし、その経済・ビジネス・企業に関するニュースを見聞きしたときに、「この言葉、授業で学んだな」と反応できるようになること</p> <p>(2) その反応した言葉について、意味が分からなければ授業資料に戻るなどして随時確認し、その言葉のイメ</p>						

授業外における学習（準備学習の内容・時間）	一じを少しずつ膨らませて、ご自身にとって生きた言葉となるようにゆっくりと丁寧に育てていくこと ●授業後学習（学習時間：週1～2時間程度） ・各回の授業における学びを通じて日々のニュースに積極的に触れ、なぜこうなるのか、自分や日本、世界にどのような影響を与えることになるのか、を考えるクセを身に付けてください。 ・小レポートを数回、レポートを2回提出します。
授業方法	各回のテーマに沿って授業資料を配布し、講義を行います。 【実務経験のある教員等による授業】 公認会計士として、会計監査・税務・コンサルティング業務を通じてさまざまな企業と関わり、経営者や社員の方々との対話を重ねることでその経営をサポートする実務経験を有しています。
評価基準と評価方法	・平常点 50%：小レポート、発言内容 ・レポート 50%：中間レポート、期末レポート
履修上の注意	・経済・ビジネス・企業に関する基本的な知識には体系（全体像）があり、また、各回の授業と授業の間にもつながりがあるということは、企業を知るという大きなテーマのもと、全15回の授業には全体を貫く大きな流れがあるということです。したがって、授業にはできる限り毎回出席し、やむを得ず出席できない場合には、時間を捻出し、次回までにその内容を積極的にフォローするようにしてください。 ・社会に出ると自分で考え自分の意見を周りに伝えることが重要になります。そのためグループディスカッション及び発表を多数行います。 ・その他の受講に際しての注意事項（受講者の心得、授業進行上のルールなど）については、初回授業時以降、随時お伝えします。
教科書	なし
参考書	授業内で随時お伝えします。

科目区分	キャリア系列						
科目名	女性とキャリア形成						
担当教員	単位認定者：青谷 実知代					科目ナンバ-	Z22060
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	現代社会における女性の企業（起業）での働き方と今後起こり得るライフイベントにともなう生活スタイルの実態を学び、社会的・職業的自立に向けての課題を考える。						
授業の概要	グローバルに活躍する女性の育成を目指しながら、男女共同参画社会の担い手として、またダイバーシティ経営の担い手として、これからのキャリアに必要な諸条件を学び、女性のライフステージに応じた生き方を自ら考える力を習得します。 その中で、自己分析・自己理解を進めるにあたり、ロールモデルとなる女性像・企業スタイルをゲストスピーカーの講話の会と出された課題をディスカッションすることで、解決方法を導き、自らのキャリアを主体的に考えていく。						
到達目標	①現代社会における女性の働き方について理解を深めることができる。（知識・理解） ②業種と業界の違いを理解し、自らの興味・関心の領域をより具体的なものとして意識することができる。（態度・志向性） ③ライフ・ワークの双方向の観点から自らのキャリアを主体的に考える。（汎用的技能）						
授業計画	<p>本講義は第1回目～第3回目、第14回目_第15回目以外は、ゲストスピーカーの講師が2回ずつ担当するオムニバス形式による授業です。 この科目はキャリア教育センターが開講するもので、先輩の講話を聞きながら、ロールモデルを見つけてもらうことを目的とします。（但し、業界によっては女性のゲストスピーカーとは限りません）</p> <p>第1回 現在の女性の働き方：青谷実知代 第2回 ダイバーシティと女性活躍推進：青谷実知代 第3回 自分のキャリアをリアルに考える：青谷実知代 第4回 グローバルに活躍する起業家（卒業生） 第5回 グローバルに活躍する為に必要なスキル（卒業生：ディスカッション） 第6回 結婚・出産・仕事復帰というライフイベントの必要性和課題（卒業生） 第7回 ライフイベントにともなう必要なスキル（卒業生：ディスカッション） 第8回 女性が活躍するIT業界の実情 第9回 IT業界で活躍する為のスキルとは（ディスカッション） 第10回 年代別キャリアから考えること① 第11回 年代別キャリアで見えてきたこと（理想と現実）②（ディスカッション） 第12回 女性が職場で働くことの意義 第13回 ダイバーシティ経営の中で求められること（ディスカッション） 第14回 今後のキャリアを積む上での重要点：青谷実知代 第15回 ライフ&ワークの観点からキャリアデザインを考える（総まとめ）青谷実知代</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習：日頃から新聞や各種業界雑誌を読むように心がける。関心ある業界の傾向をつかむ。【2時間】 授業後学習：講話を振り返り、出された課題について参考となる資料をあつめディスカッションに向けた準備をすること【2時間】</p>						
授業方法	<p>オムニバス形式の講義 【実務経験のある教員等による授業】 10回（それぞれ2回担当）卒業生を含めたゲストスピーカーが1人2回ずつ授業を担当。 その業界や仕組み、女性としてのキャリア形成に生かせる知識を指導する。</p>						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内での提出物（70%）：各回提出のリアクションペーパー ・課題レポート（30%）：業界・業種の理解度、業界に関する自らの興味・関心の明確性・具体性について評価する。 						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・20分以上の遅刻は欠席扱いにする。 ・講義全体の2/3の出席が確認できない場合は受講資格を失う。 ・社会マナーを持って受講すること。 						
教科書	なし（必要に応じて資料を配布する）						
参考書	昭和女子大学女性文化研究所編『女性とキャリアデザイン』、御茶の水書房						

科目区分	キャリア系列						
科目名	女性とキャリア形成						
担当教員	単位認定者：青谷 実知代					科目ナンバ-	Z22060
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	現代社会における女性の企業（起業）での働き方と今後起こり得るライフイベントにともなう生活スタイルの実態を学び、社会的・職業的自立に向けての課題を考える。						
授業の概要	グローバルに活躍する女性の育成を目指しながら、男女共同参画社会の担い手として、またダイバーシティ経営の担い手として、これからのキャリアに必要な諸条件を学び、女性のライフステージに応じた生き方を自ら考える力を習得します。 その中で、自己分析・自己理解を進めるにあたり、ロールモデルとなる女性像・企業スタイルをゲストスピーカーの講話の会と出された課題をディスカッションすることで、解決方法を導き、自らのキャリアを主体的に考えていく。						
到達目標	①現代社会における女性の働き方について理解を深めることができる。（知識・理解） ②業種と業界の違いを理解し、自らの興味・関心の領域をより具体的なものとして意識することができる。（態度・志向性） ③ライフ・ワークの双方向の観点から自らのキャリアを主体的に考える。（汎用的技能）						
授業計画	<p>本講義は第1回目～第3回目、第14回目_第15回目以外は、ゲストスピーカーの講師が2回ずつ担当するオムニバス形式による授業です。 この科目はキャリア教育センターが開講するもので、先輩の講話を聞きながら、ロールモデルを見つけてもらうことを目的とします。（但し、業界によっては女性のゲストスピーカーとは限りません）</p> <p>第1回 現在の女性の働き方：青谷実知代 第2回 ダイバーシティと女性活躍推進：青谷実知代 第3回 自分のキャリアをリアルに考える：青谷実知代 第4回 グローバルに活躍する起業家（卒業生） 第5回 グローバルに活躍する為に必要なスキル（卒業生：ディスカッション） 第6回 結婚・出産・仕事復帰というライフイベントの必要性和課題（卒業生） 第7回 ライフイベントにともなう必要なスキル（卒業生：ディスカッション） 第8回 女性が活躍するIT業界の実情 第9回 IT業界で活躍する為のスキルとは（ディスカッション） 第10回 年代別キャリアから考えること① 第11回 年代別キャリアで見えてきたこと（理想と現実）②（ディスカッション） 第12回 女性が職場で働くことの意義 第13回 ダイバーシティ経営の中で求められること（ディスカッション） 第14回 今後のキャリアを積む上での重要点：青谷実知代 第15回 ライフ&ワークの観点からキャリアデザインを考える（総まとめ）青谷実知代</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：日頃から新聞や各種業界雑誌を読むように心がける。関心ある業界の傾向をつかむ。【2時間】 授業後学習：講話を振り返り、出された課題について参考となる資料をあつめディスカッションに向けた準備をすること【2時間】						
授業方法	オムニバス形式の講義 【実務経験のある教員等による授業】 10回（それぞれ2回担当）卒業生を含めたゲストスピーカーが1人2回ずつ授業を担当。 その業界や仕組み、女性としてのキャリア形成に生かせる知識を指導する。						
評価基準と評価方法	・授業内での提出物（70%）：各回提出のリアクションペーパー ・課題レポート（30%）：業界・業種の理解度、業界に関する自らの興味・関心の明確性・具体性について評価する。						
履修上の注意	・20分以上の遅刻は欠席扱いにする。 ・講義全体の2/3の出席が確認できない場合は受講資格を失う。 ・社会マナーを持って受講すること。						
教科書	なし（必要に応じて資料を配布する）						
参考書	昭和女子大学女性文化研究所編『女性とキャリアデザイン』、御茶の水書房						

科目区分	キャリア系列						
科目名	ファイナンシャル・プランニング						
担当教員	福一 由紀					科目ナンバ-	Z22100
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	将来のライフプランを作成し、それに連動する収支・支出計画を考察する。 FP技能士3級レベルの社会保険、年金制度、生命保険、資産運用、税等、お金に関する知識を習得する。						
授業の概要	前半は社会保障や税金、保険の制度について学習する。 健康保険や年金制度、労働保険制度についてはライフステージによって状況が変わるため具体的な事例を用いて学ぶ。また、所得税などの税金の仕組みを理解し、最新の動向を含めて総合的に学習する。 後半は各種金融商品（生命保険、損害保険、クレジットカード、預貯金、債券、株式、投資信託等）の基礎知識（仕組みとリスク）を具体的な商品や事例を用いて学習する。						
到達目標	FP技能士3級レベルの知識を習得し、ライフプラン実現のための資金計画をどのように立てていけばいいのかわかる、様々なケースを想定し具体的に立案し、必要が生じれば修正することができる。（態度・志向性）						
授業計画	<p>第1回 金融リテラシーについて～オリエンテーリング</p> <p>第2回 金融リテラシー（金融、経済の知識、家計管理、長期的な生活設計）の重要性について</p> <p>第3回 社会保障制度Ⅰ 公的医療保険制度の概要、働き方で変わる健康保険、介護保険制度の概要</p> <p>第4回 社会保障制度Ⅱ 公的年金制度の概要、ライフステージと年金制度、企業年金制度の概要</p> <p>第5回 社会保障制度Ⅲ 労働保険の概要、労災保険制度、雇用保険制度の概要</p> <p>第6回 税金Ⅰ 所得税、住民税の概要、税金の計算方法と納税の仕組み、配偶者控除と世帯収入、</p> <p>第7回 税金Ⅱ 相続税、贈与税の概要、その他の税制制度と今後の見通し</p> <p>第8回 リスクと保険 身の回りのリスクについて、生命保険、損害保険の重要性とその注意点</p> <p>第9回 クレジットカード、ローン クレジットカードの基礎知識、クレジットカードの支払い方法、ローンの基礎知識、金利の計算方法、消費者信用、多重債務問題など現代社会における課題</p> <p>第10回 投資 投資の心構え、投資の基礎、リスクとリターン、アセットアロケーションについて</p> <p>第11回 預貯金およびその類似商品 普通預金・定期預金・総合口座・外貨預金・財形貯蓄等の仕組みとリスクについて</p> <p>第12回 債券投資 債券の基礎知識、債券の種類と商品内容、個人向け国債について、債券の利回り計算について</p> <p>第13回 株式投資 株式の基礎知識、株式投資の魅力とリスク、株式投資に関わる指標について</p> <p>第14回 投資信託 投資信託の基礎知識、投資信託の魅力とリスク、投資信託の仕組みについて、主な投資信託商品</p> <p>第15回 ライフプランとマネープラン 女性のライフステージにおけるマネープラン、配偶者控除について、再就職の実情 今後の動向、まとめ 税制、社会保険の今後の動向、社会人として自立するために</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>日頃から新聞、テレビ等で経済に関する記事やニュースに興味を持って接すること（日経平均株価、為替レート、社会保険、税金の情報など）。</p> <p>【授業前準備】当日の授業計画及び講座内容に記載しているキーワードについて、当日を含む直近の新聞記事を読み、下調べをすること（学習時間2時間）。</p> <p>【授業後学習】当日のテキストを基に新聞やFP関連誌等で復習し、「本日のまとめ」を次回授業日に提出する（学習時間2時間）</p>						
授業方法	<p>講義方式、グループワークを交え、テキストに基づいて授業を行う。 受講生の傾向や理解度などに応じて、部分的に授業計画を変更することがある。</p> <p>【実務経験のある教員による授業】 1級ファイナンシャル・プランニング技能士（CFP）として実際にライフプランニングに携わる経験を基に3級ファイナンシャル・プランニング資格を目指してケーススタディーを通して指導する。</p>						
評価基準と評価方法	<p>・レポート(40点) ・平常点等(60点) 平常点等配点内訳：小テスト(40点) 授業への積極的参加度(20点)</p>						
履修上の注意	<p>1. 電卓を準備すること。 2. テキストは各回の出席者のみ配布する。 3. 授業回数数の3分の1以上欠席した人は試験の受験資格を失うものとする。 4. 15分以上の遅刻は欠席扱いにする。</p>						

教科書	プリントを配布する。
参考書	特に指定しない。

科目区分	キャリア系列						
科目名	ファイナンシャル・プランニング						
担当教員	福一 由紀					科目ナンバ-	Z22100
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	将来のライフプランを作成し、それに連動する収支・支出計画を考察する。 FP技能士3級レベルの社会保険、年金制度、生命保険、資産運用、税等、お金に関する知識を習得する。						
授業の概要	前半は社会保障や税金、保険の制度について学習する。 健康保険や年金制度、労働保険制度についてはライフステージによって状況が変わるため具体的な事例を用いて学ぶ。また、所得税などの税金の仕組みを理解し、最新の動向を含めて総合的に学習する。 後半は各種金融商品（生命保険、損害保険、クレジットカード、預貯金、債券、株式、投資信託等）の基礎知識（仕組みとリスク）を具体的な商品や事例を用いて学習する。						
到達目標	FP技能士3級レベルの知識を習得し、ライフプラン実現のための資金計画をどのように立てていけばいいのかわかる、様々なケースを想定し具体的に立案し、必要が生じれば修正することができる。（態度・志向性）						
授業計画	<p>第1回 金融リテラシーについて～オリエンテーリング 金融リテラシー（金融、経済の知識、家計管理、長期的な生活設計）の重要性について</p> <p>第2回 社会保障制度Ⅰ 公的医療保険制度の概要、働き方で変わる健康保険、介護保険制度の概要</p> <p>第3回 社会保障制度Ⅱ 公的年金制度の概要、ライフステージと年金制度、企業年金制度の概要</p> <p>第4回 社会保障制度Ⅲ 労働保険の概要、労災保険制度、雇用保険制度の概要</p> <p>第5回 税金Ⅰ 所得税、住民税の概要、税金の計算方法と納税の仕組み、配偶者控除と世帯収入、</p> <p>第6回 税金Ⅱ 相続税、贈与税の概要、その他の税制制度と今後の見通し</p> <p>第7回 リスクと保険 身の回りのリスクについて、生命保険、損害保険の重要性とその注意点</p> <p>第8回 クレジットカード、ローン クレジットカードの基礎知識、クレジットカードの支払い方法、ローンの基礎知識、金利の計算方法、消費者信用、多重債務問題など現代社会における課題</p> <p>第9回 投資 投資の心構え、投資の基礎、リスクとリターン、アセットアロケーションについて</p> <p>第10回 預貯金およびその類似商品 普通預金・定期預金・総合口座・外貨預金・財形貯蓄等の仕組みとリスクについて</p> <p>第11回 債券投資 債券の基礎知識、債券の種類と商品内容、個人向け国債について、債券の利回り計算について</p> <p>第12回 株式投資 株式の基礎知識、株式投資の魅力とリスク、株式投資に関わる指標について</p> <p>第13回 投資信託 投資信託の基礎知識、投資信託の魅力とリスク、投資信託の仕組みについて、主な投資信託商品</p> <p>第14回 ライフプランとマネープラン 女性のライフステージにおけるマネープラン、配偶者控除について、再就職の実情</p> <p>第15回 今後の動向、まとめ 税制、社会保険の今後の動向、社会人として自立するために</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>日頃から新聞、テレビ等で経済に関する記事やニュースに興味を持って接すること（日経平均株価、為替レート、社会保険、税金の情報など）。</p> <p>【授業前準備】当日の授業計画及び講座内容に記載しているキーワードについて、当日を含む直近の新聞記事を読み、下調べをすること（学習時間2時間）。</p> <p>【授業後学習】当日のテキストを基に新聞やFP関連誌等で復習し、「本日のまとめ」を次回授業日に提出する（学習時間2時間）</p>						
授業方法	<p>講義方式、グループワークを交え、テキストに基づいて授業を行う。 受講生の傾向や理解度などに応じて、部分的に授業計画を変更することがある。</p> <p>【実務経験のある教員による授業】 1級ファイナンシャル・プランニング技能士（CFP）として実際にライフプランニングに携わる経験を基に3級ファイナンシャル・プランニング資格を目指してケーススタディーを通して指導する。</p>						
評価基準と評価方法	<p>・レポート(40点) ・平常点等(60点) 平常点等配点内訳：小テスト(40点) 授業への積極的参加度(20点)</p>						
履修上の注意	<p>1. 電卓を準備すること。 2. テキストは各回の出席者のみ配布する。 3. 授業回数数の3分の1以上欠席した人は試験の受験資格を失うものとする。 4. 15分以上の遅刻は欠席扱いにする。</p>						

教科書	プリントを配布する。
参考書	特に指定しない。

科目区分	キャリア系列						
科目名	ファイナンシャル・プランニング						
担当教員	福一 由紀					科目ナンバ-	Z22100
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	将来のライフプランを作成し、それに連動する収支・支出計画を考察する。 FP技能士3級レベルの社会保険、年金制度、生命保険、資産運用、税等、お金に関する知識を習得する。						
授業の概要	前半は社会保障や税金、保険の制度について学習する。 健康保険や年金制度、労働保険制度についてはライフステージによって状況が変わるため具体的な事例を用いて学ぶ。また、所得税などの税金の仕組みを理解し、最新の動向を含めて総合的に学習する。 後半は各種金融商品（生命保険、損害保険、クレジットカード、預貯金、債券、株式、投資信託等）の基礎知識（仕組みとリスク）を具体的な商品や事例を用いて学習する。						
到達目標	FP技能士3級レベルの知識を習得し、ライフプラン実現のための資金計画をどのように立てていけばいいのかわかる、様々なケースを想定し具体的に立案し、必要が生じれば修正することができる。（態度・志向性）						
授業計画	<p>第1回 金融リテラシーについて～オリエンテーリング</p> <p>第2回 金融リテラシー（金融、経済の知識、家計管理、長期的な生活設計）の重要性について</p> <p>第3回 社会保障制度Ⅰ 公的医療保険制度の概要、働き方で変わる健康保険、介護保険制度の概要</p> <p>第4回 社会保障制度Ⅱ 公的年金制度の概要、ライフステージと年金制度、企業年金制度の概要</p> <p>第5回 社会保障制度Ⅲ 労働保険の概要、労災保険制度、雇用保険制度の概要</p> <p>第6回 税金Ⅰ 所得税、住民税の概要、税金の計算方法と納税の仕組み、配偶者控除と世帯収入、</p> <p>第7回 税金Ⅱ 相続税、贈与税の概要、その他の税制制度と今後の見通し</p> <p>第8回 リスクと保険 身の回りのリスクについて、生命保険、損害保険の重要性とその注意点</p> <p>第9回 クレジットカード、ローン クレジットカードの基礎知識、クレジットカードの支払い方法、ローンの基礎知識、金利の計算方法、消費者信用、多重債務問題など現代社会における課題</p> <p>第10回 投資 投資の心構え、投資の基礎、リスクとリターン、アセットアロケーションについて</p> <p>第11回 預貯金およびその類似商品 普通預金・定期預金・総合口座・外貨預金・財形貯蓄等の仕組みとリスクについて</p> <p>第12回 債券投資 債券の基礎知識、債券の種類と商品内容、個人向け国債について、債券の利回り計算について</p> <p>第13回 株式投資 株式の基礎知識、株式投資の魅力とリスク、株式投資に関わる指標について</p> <p>第14回 投資信託 投資信託の基礎知識、投資信託の魅力とリスク、投資信託の仕組みについて、主な投資信託商品</p> <p>第15回 ライフプランとマネープラン 女性のライフステージにおけるマネープラン、配偶者控除について、再就職の実情</p> <p>第16回 今後の動向、まとめ 税制、社会保険の今後の動向、社会人として自立するために</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>日頃から新聞、テレビ等で経済に関する記事やニュースに興味を持って接すること（日経平均株価、為替レート、社会保険、税金の情報など）。</p> <p>【授業前準備】当日の授業計画及び講座内容に記載しているキーワードについて、当日を含む直近の新聞記事を読み、下調べをすること（学習時間2時間）。</p> <p>【授業後学習】当日のテキストを基に新聞やFP関連誌等で復習し、「本日のまとめ」を次回授業日に提出する（学習時間2時間）</p>						
授業方法	<p>講義方式、グループワークを交え、テキストに基づいて授業を行う。 受講生の傾向や理解度などに応じて、部分的に授業計画を変更することがある。</p> <p>【実務経験のある教員による授業】 1級ファイナンシャル・プランニング技能士（CFP）として実際にライフプランニングに携わる経験を基に3級ファイナンシャル・プランニング資格を目指してケーススタディーを通して指導する。</p>						
評価基準と評価方法	<p>・レポート(40点)</p> <p>・平常点等(60点) 平常点等配点内訳：小テスト(40点) 授業への積極的参加度(20点)</p>						
履修上の注意	<p>1. 電卓を準備すること。</p> <p>2. テキストは各回の出席者のみ配布する。</p> <p>3. 授業回数数の3分の1以上欠席した人は試験の受験資格を失うものとする。</p> <p>4. 15分以上の遅刻は欠席扱いにする。</p>						

教科書	プリントを配布する。
参考書	特に指定しない。

科目区分	キャリア系列						
科目名	ホスピタリティ・マネジメント						
担当教員	青谷 実知代・濱岡 美衣					科目ナンバ-	Z21090
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	ホスピタリティの探求と発揮						
授業の概要	ホスピタリティを様々な角度から取り上げ、これからの産業におけるホスピタリティの重要性を理解し行動につなげる。 現代では様々な場面でホスピタリティの重要性が高まっている。この授業では、エアライン、ホテル、飲食業のサービスや仕事などを題材に取り上げながら、ホスピタリティが生み出す価値の重要性について広く考察していく。また、授業を通じて履修者がホスピタリティの概念について考え、創造できるようになることを目指す。						
到達目標	1. 現代の日本社会において、ホスピタリティの意味と果たす役割を理解することができる。【態度・志向性】 2. ホスピタリティが生み出す要素を理解できる。【態度・志向性】 3. ホスピタリティの概念を理解し、実際に発揮できる。【態度・志向性】						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション：授業履修にあたっての説明 概要説明</p> <p>第2回 ホスピタリティの原義：ホスピタリティの語源 ホスピタリティとサービスの比較</p> <p>第3回 ホスピタリティと人間：ホスピタリティの起源 他者理解</p> <p>第4回 ホスピタリティと文化：ホスピタリティの文化的差異 地域のホスピタリティ</p> <p>第5回 ホスピタリティと産業Ⅰ：日本のおもてなしを考える</p> <p>第6回 ホスピタリティと産業Ⅱ：エアラインにおけるホスピタリティ～ANAを例に～</p> <p>第7回 ホスピタリティとチームワーク：チームワークの重要性 チームの力と個人の力</p> <p>第8回 ホスピタリティを伝える基本Ⅰ：ホスピタリティとコミュニケーションの関係</p> <p>第9回 ホスピタリティを伝える基本Ⅱ：異文化コミュニケーションを考える</p> <p>第10回 言葉で表すホスピタリティ：敬語表現の基礎 社会で活用できる表現</p> <p>第11回 表現力Ⅰ：非言語コミュニケーションの重要性 表情が与える印象とは</p> <p>第12回 表現力Ⅱ：ホスピタリティを伝える行動様式 立ち居振る舞い</p> <p>第13回 事例研究Ⅰ：リッツカールトンに学ぶホスピタリティ</p> <p>第14回 事例研究Ⅱ：東京ディズニーリゾートのホスピタリティ</p> <p>第15回 まとめ：全体のまとめと振り返り レポート作成</p> <p>※授業は全15回濱岡が担当する。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後学習：配付資料を読み、復習すること。（学習時間<4時間） 最終的には理解した内容を実生活に取り入れることに繋げるため、毎回の授業を理解し実際に行動化することが大切である。						
授業方法	<p>パワーポイントを使用し講義を行う。 また、授業後半部分はグループワークや実習を行うため各人の積極的な授業参加を期待する。</p> <p>【実務経験のある教員等による授業】 過去にエアライン業界で働いていた講師が、ホスピタリティ産業の仕事としてのコミュニケーション、行動様式、「おもてなし」の文化などを事例研究やグループディスカッションの形式で指導する。</p>						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 授業内での提出物20%（各回講義テーマに沿った内容についてのレポート） 第15回まとめレポート50% 平常点30%（授業内での質疑応答や課題に対する考察や提案など） 詳細は第1回オリエンテーションで説明するので必ず出席し確認すること。 						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> 授業中に各テーマに沿ってレポート作成を行う。授業内容を理解し、自身の考えを自分の言葉で表現できるように講義を受けることを期待する。 ホスピタリティをテーマに行うことから常に周囲にホスピタリティを持って行動すること。 グループワークや実習に積極的に取り組み、必ず日常生活のあらゆる場面で活用すること。 欠席は5回までとし（遅刻含む）、それ以上は失格となるため各自で留意しておくこと。 						
教科書	テキストは使用しない。毎回レジュメを配付するので各自でファイリングし授業に持参すること。						
参考書							

科目区分	キャリア系列						
科目名	ホスピタリティ・マネジメント						
担当教員	青谷 実知代・濱岡 美衣					科目ナンバ-	Z21090
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	ホスピタリティの探求と発揮						
授業の概要	ホスピタリティを様々な角度から取り上げ、これからの産業におけるホスピタリティの重要性を理解し行動につなげる。 現代では様々な場面でホスピタリティの重要性が高まっている。この授業では、エアライン、ホテル、飲食業のサービスや仕事などを題材に取り上げながら、ホスピタリティが生み出す価値の重要性について広く考察していく。また、授業を通じて履修者がホスピタリティの概念について考え、創造できるようになることを目指す。						
到達目標	1. 現代の日本社会において、ホスピタリティの意味と果たす役割を理解することができる。【態度・志向性】 2. ホスピタリティが生み出す要素を理解できる。【態度・志向性】 3. ホスピタリティの概念を理解し、実際に発揮できる。【態度・志向性】						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション：授業履修にあたっての説明 概要説明</p> <p>第2回 ホスピタリティの原義：ホスピタリティの語源 ホスピタリティとサービスの比較</p> <p>第3回 ホスピタリティと人間：ホスピタリティの起源 他者理解</p> <p>第4回 ホスピタリティと文化：ホスピタリティの文化的差異 地域のホスピタリティ</p> <p>第5回 ホスピタリティと産業Ⅰ：日本のおもてなしを考える</p> <p>第6回 ホスピタリティと産業Ⅱ：エアラインにおけるホスピタリティ～ANAを例に～</p> <p>第7回 ホスピタリティとチームワーク：チームワークの重要性 チームの力と個人の力</p> <p>第8回 ホスピタリティを伝える基本Ⅰ：ホスピタリティとコミュニケーションの関係</p> <p>第9回 ホスピタリティを伝える基本Ⅱ：異文化コミュニケーションを考える</p> <p>第10回 言葉で表すホスピタリティ：敬語表現の基礎 社会で活用できる表現</p> <p>第11回 表現力Ⅰ：非言語コミュニケーションの重要性 表情が与える印象とは</p> <p>第12回 表現力Ⅱ：ホスピタリティを伝える行動様式 立ち居振る舞い</p> <p>第13回 事例研究Ⅰ：リッツカールトンに学ぶホスピタリティ</p> <p>第14回 事例研究Ⅱ：東京ディズニーリゾートのホスピタリティ</p> <p>第15回 まとめ：全体のまとめと振り返り レポート作成</p> <p>※授業は全15回濱岡が担当する。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後学習：配付資料を読み、復習すること。（学習時間<4時間） 最終的には理解した内容を実生活に取り入れることに繋げるため、毎回の授業を理解し実際に行動化することが大切である。						
授業方法	<p>パワーポイントを使用し講義を行う。 また、授業後半部分はグループワークや実習を行うため各人の積極的な授業参加を期待する。</p> <p>【実務経験のある教員等による授業】 過去にエアライン業界で働いていた講師が、ホスピタリティ産業の仕事としてのコミュニケーション、行動様式、「おもてなし」の文化などを事例研究やグループディスカッションの形式で指導する。</p>						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 授業内での提出物20%（各回講義テーマに沿った内容についてのレポート） 第15回まとめレポート50% 平常点30%（授業内での質疑応答や課題に対する考察や提案など） 詳細は第1回オリエンテーションで説明するので必ず出席し確認すること。 						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> 授業中に各テーマに沿ってレポート作成を行う。授業内容を理解し、自身の考えを自分の言葉で表現できるように講義を受けることを期待する。 ホスピタリティをテーマに行うことから常に周囲にホスピタリティを持って行動すること。 グループワークや実習に積極的に取り組み、必ず日常生活のあらゆる場面で活用すること。 欠席は5回までとし（遅刻含む）、それ以上は失格となるため各自で留意しておくこと。 						
教科書	テキストは使用しない。毎回レジュメを配付するので各自でファイリングし授業に持参すること。						
参考書							

科目区分	キャリア系列						
科目名	ホスピタリティ・マネジメント						
担当教員	青谷 実知代・濱岡 美衣					科目ナンバ-	Z21090
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	ホスピタリティの探求と発揮						
授業の概要	ホスピタリティを様々な角度から取り上げ、これからの産業におけるホスピタリティの重要性を理解し行動につなげる。 現代では様々な場面でホスピタリティの重要性が高まっている。この授業では、エアライン、ホテル、飲食業のサービスや仕事などを題材に取り上げながら、ホスピタリティが生み出す価値の重要性について広く考察していく。また、授業を通じて履修者がホスピタリティの概念について考え、創造できるようになることを目指す。						
到達目標	1. 現代の日本社会において、ホスピタリティの意味と果たす役割を理解することができる。【態度・志向性】 2. ホスピタリティが生み出す要素を理解できる。【態度・志向性】 3. ホスピタリティの概念を理解し、実際に発揮できる。【態度・志向性】						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション：授業履修にあたっての説明 概要説明</p> <p>第2回 ホスピタリティの原義：ホスピタリティの語源 ホスピタリティとサービスの比較</p> <p>第3回 ホスピタリティと人間：ホスピタリティの起源 他者理解</p> <p>第4回 ホスピタリティと文化：ホスピタリティの文化的差異 地域のホスピタリティ</p> <p>第5回 ホスピタリティと産業Ⅰ：日本のおもてなしを考える</p> <p>第6回 ホスピタリティと産業Ⅱ：エアラインにおけるホスピタリティ～ANAを例に～</p> <p>第7回 ホスピタリティとチームワーク：チームワークの重要性 チームの力と個人の力</p> <p>第8回 ホスピタリティを伝える基本Ⅰ：ホスピタリティとコミュニケーションの関係</p> <p>第9回 ホスピタリティを伝える基本Ⅱ：異文化コミュニケーションを考える</p> <p>第10回 言葉で表すホスピタリティ：敬語表現の基礎 社会で活用できる表現</p> <p>第11回 表現力Ⅰ：非言語コミュニケーションの重要性 表情が与える印象とは</p> <p>第12回 表現力Ⅱ：ホスピタリティを伝える行動様式 立ち居振る舞い</p> <p>第13回 事例研究Ⅰ：リッツカールトンに学ぶホスピタリティ</p> <p>第14回 事例研究Ⅱ：東京ディズニーリゾートのホスピタリティ</p> <p>第15回 まとめ：全体のまとめと振り返り レポート作成</p> <p>※授業は全15回濱岡が担当する。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後学習：配付資料を読み、復習すること。（学習時間<4時間） 最終的には理解した内容を実生活に取り入れることに繋げるため、毎回の授業を理解し実際に行動化することが大切である。						
授業方法	<p>パワーポイントを使用し講義を行う。 また、授業後半部分はグループワークや実習を行うため各人の積極的な授業参加を期待する。</p> <p>【実務経験のある教員等による授業】 過去にエアライン業界で働いていた講師が、ホスピタリティ産業の仕事としてのコミュニケーション、行動様式、「おもてなし」の文化などを事例研究やグループディスカッションの形式で指導する。</p>						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 授業内での提出物20%（各回講義テーマに沿った内容についてのレポート） 第15回まとめレポート50% 平常点30%（授業内での質疑応答や課題に対する考察や提案など） 詳細は第1回オリエンテーションで説明するので必ず出席し確認すること。 						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> 授業中に各テーマに沿ってレポート作成を行う。授業内容を理解し、自身の考えを自分の言葉で表現できるように講義を受けることを期待する。 ホスピタリティをテーマに行うことから常に周囲にホスピタリティを持って行動すること。 グループワークや実習に積極的に取り組み、必ず日常生活のあらゆる場面で活用すること。 欠席は5回までとし（遅刻含む）、それ以上は失格となるため各自で留意しておくこと。 						
教科書	テキストは使用しない。毎回レジュメを配付するので各自でファイリングし授業に持参すること。						
参考書							

科目区分	キャリア系列						
科目名	簿記・会計の基礎						
担当教員	倉島 進					科目ナンバ-	Z21070
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	企業の活動や経営を理解するために必要な日商簿記初級レベルの簿記の基本的な知識を習得する。						
授業の概要	<p>・社会にはさまざまな企業が存在し、儲けるために日々活動しています。企業の活動には、必ずお金の動きが伴いますが、経営者は、このお金の動きについて記録し、報告書を作成し、報告しなければなりません。この記録・作成の一定のルールが簿記で、簿記を用いて作成された報告書を報告する一定のルールが会計です。簿記は会計の一部であり、会計の入門的な位置づけとなります。</p> <p>・簿記・会計は、お金の動きという視点から企業の活動を捉えることですから、簿記・会計の学びを通じて、企業が儲けるためにどのような活動をしているのか、企業の経営のしくみについても勉強することになります。</p> <p>・今日、簿記の基本的な知識は、企業の活動や経営を理解するため、経理・会計担当者のみならず、業種・職種を問わずビジネスパーソンすべてに必要とされています。そして、簿記が必要であることは、就職活動を控える学生のみならず、志望する企業の報告書を用いて「現状はどうか、今後伸びる企業か」などを分析し、判断材料とすることもできるからです。</p> <p>・本科目では、日商簿記初級の範囲を主たる対象とし、業種・職種に関わらずビジネスパーソンが日常業務をこなすための基礎知識について説明します。具体的には、①簿記の全体像、②簿記の基本用語や複式簿記の仕組み、を理解し、業務に活用することができるレベルを目指しています。したがって、日商簿記3級に挑戦する方は、本科目の受講後、「簿記・会計の実践」を続けて受講することをお勧めします。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 簿記の基本的な知識は、企業の活動や経営を理解するために必要なものであることが分かる。【知識・理解】 2. ビジネスパーソンとして必要な、簿記の基本的な知識とは何か分かる。【知識・理解】 3. 学んだ簿記の基本的な知識をどのように活かしていくことができるのか、イメージすることができる。【態度・志向性】 4. 簿記の基本的な知識を学ぶプロセスを通じて、自分と企業、企業と社会との関係性について意識できるようになる。【態度・志向性】 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 第1回 オリエンテーション（簿記とは何か？） 第2回 簿記の世界へようこそ！ 第3回 簿記を使って記録してみよう（勘定科目について） 第4回 簿記を使って記録してみよう（仕訳のしくみ） 第5回 簿記を使って記録してみよう（集計のしくみ） 第6回 報告書を作ってみよう（今までのまとめ） 第7回 現金とはなにか？ 第8回 商品売買のしくみ 第9回 商品売買のしくみ実践 第10回 手形取引 第11回 固定資産の売買とその処理 第12回 その場面ではこの仕訳（その他の債権債務） 第13回 その場面ではこの仕訳（税金について） 第14回 その場面ではこの仕訳（資本金の話） 第15回 総まとめと試験 <p>【留意点】 受講者数、受講生の理解や習得の度合い、授業の進捗などにより、内容の入れ替えや変更をする可能性があります。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>予習をするより、授業後の学習を徹底してください。授業は、みなさんが授業時間外の学習をしやすくするための導入作りの場という意味合いが強いです。</p> <p>・授業前準備学習：授業が進み回数を重ねるほど復習の範囲が広がるため、自然と授業後の学習時間が増えてきます。それが結果として次回の授業前準備学習となります。（学習時間：週2時間）</p> <p>・授業後学習：配布した授業資料と教科書を読み込み、理解を深めてください。授業資料や教科書に出てきた問題を繰り返し解いてください。必要に応じて、Webで自由に閲覧できる動画の視聴を求めます。（学習時間：週2時間）</p>						
授業方法	<p>・教科書である「知る・わかる・わかる はじめての簿記入門」を徹底的に理解することをコンセプトに授業を進めます。</p> <p>・各回のテーマに沿って「授業資料」を配布し、講義を行います。その中で、各回テーマについて押さえるべき論点を特定し、用語や仕訳に関する問題を提示していきます。</p> <p>・提示した問題に関する演習は、個人ワークとして、授業内・外で行っていただきます。</p> <p>【実務経験のある教員等による授業】 会計のプロフェッショナルである公認会計士として、日商簿記初級レベルの簿記の基本的な知識について、講義と演習を通じて説明します。</p>						
評価基準と評価方法	<p>・平常点 50%：リアクションペーパー、小テスト、授業中の発表等</p> <p>・試験 50%：期末テスト（中間テストを行う場合や、レポート形式の試験となる場合があります）</p>						

履修上の注意	<ul style="list-style-type: none">・簿記は、他の科目と比べると、日々の地道な積み重ねが大切になる科目です。授業時間外にも、ある程度の時間をかけることが必要であり、決して授業を受けるだけで習得できるような楽な科目ではありません。そこは覚悟の上ご受講ください。・日々地道に積み重ねるといふことは、日常生活に簿記にふれることを習慣として取り入れるということでもあります。できるかぎり授業には毎回出席し、定期的・継続的な学習を心掛け、ご自身の心地よい学習リズムを構築してください。やむを得ず授業を欠席する場合は、次回までに必ずご自身で補っておくようにしてください。・その他の受講に際しての注意事項（受講者の心得、授業進行上のルールなど）については、初回授業時以降、随時お伝えします。
教科書	「知る・わかる・わかる はじめての簿記入門（改訂新版）」 倉島進・川田崇之・中村智佐著、セルバ出版、ISBN：9784863676862
参考書	授業内でお伝えします。

科目区分	キャリア系列						
科目名	簿記・会計の基礎						
担当教員	中村 智佐					科目ナンバ-	Z21070
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	企業の活動や経営を理解するために必要な日商簿記初級レベルの簿記の基本的な知識を習得する。						
授業の概要	<p>・社会にはさまざまな企業が存在し、儲けるために日々活動しています。企業の活動には、必ずお金の動きが伴いますが、経営者は、このお金の動きについて記録し、報告書を作成し、報告しなければなりません。この記録・作成の一定のルールが簿記で、簿記を用いて作成された報告書を報告する一定のルールが会計です。簿記は会計の一部であり、会計の入門的な位置づけとなります。</p> <p>・簿記・会計は、お金の動きという視点から企業の活動を捉えることですから、簿記・会計の学びを通じて、企業が儲けるためにどのような活動をしているのか、企業の経営のしくみについても勉強することになります。</p> <p>・今日、簿記の基本的な知識は、企業の活動や経営を理解するため、経理・会計担当者のみならず、業種・職種を問わずビジネスパーソンすべてに必要とされています。そして、簿記が必要であることは、就職活動を控える学生のみならず、志望する企業の報告書を用いて「現状はどうか、今後伸びる企業か」などを分析し、判断材料とすることもできるからです。</p> <p>・本科目では、日商簿記初級の範囲を主たる対象とし、業種・職種に関わらずビジネスパーソンが日常業務をこなすための基礎知識について説明します。具体的には、①簿記の全体像、②簿記の基本用語や複式簿記の仕組み、を理解し、業務に活用することができるレベルを目指しています。したがって、日商簿記3級に挑戦する方は、本科目の受講後、「簿記・会計の実践」を続けて受講することをお勧めします。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 簿記の基本的な知識は、企業の活動や経営を理解するために必要なものであることが分かる。【知識・理解】 2. ビジネスパーソンとして必要な、簿記の基本的な知識とは何か分かる。【知識・理解】 3. 学んだ簿記の基本的な知識をどのように活かしていくことができるのか、イメージすることができる。【態度・志向性】 4. 簿記の基本的な知識を学ぶプロセスを通じて、自分と企業、企業と社会との関係性について意識できるようになる。【態度・志向性】 						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション（簿記とは何か？） 第2回 簿記の世界へようこそ！ 第3回 簿記を使って記録してみよう（勘定科目について） 第4回 簿記を使って記録してみよう（仕訳のしくみ） 第5回 簿記を使って記録してみよう（集計のしくみ） 第6回 報告書を作ってみよう（今までのまとめ） 第7回 現金とはなにか？ 第8回 商品売買のしくみ 第9回 商品売買のしくみ実践 第10回 手形取引 第11回 固定資産の売買とその処理 第12回 その場面ではこの仕訳（その他の債権債務） 第13回 その場面ではこの仕訳（税金について） 第14回 その場面ではこの仕訳（資本金の話） 第15回 総まとめと試験</p> <p>【留意点】 受講者数、受講生の理解や習得の度合い、授業の進捗などにより、内容の入れ替えや変更をする可能性があります。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>予習をするより、授業後の学習を徹底してください。授業は、みなさんが授業時間外の学習をしやすくするための導入作りの場という意味合いが強いです。</p> <p>・授業前準備学習：授業が進み回数を重ねるほど復習の範囲が広がるため、自然と授業後の学習時間が増えます。それが結果として次回の授業前準備学習となります。（学習時間：週2時間）</p> <p>・授業後学習：配布した授業資料と教科書を読み込み、理解を深めてください。授業資料や教科書に出てきた問題を繰り返し解いてください。必要に応じて、Webで自由に閲覧できる動画の視聴を求めます。（学習時間：週2時間）</p>						
授業方法	<p>・教科書である「知る・わかる・わかる はじめての簿記入門」を徹底的に理解することをコンセプトに授業を進めます。</p> <p>・各回のテーマに沿って「授業資料」を配布し、講義を行います。その中で、各回テーマについて押さえるべき論点を特定し、用語や仕訳に関する問題を提示していきます。</p> <p>・提示した問題に関する演習は、個人ワークとして、授業内・外で行っていただきます。</p> <p>【実務経験のある教員等による授業】 会計のプロフェッショナルである公認会計士として、日商簿記初級レベルの簿記の基本的な知識について、講義と演習を通じて説明します。</p>						
評価基準と評価方法	<p>・平常点 50%：リアクションペーパー、小テスト、授業中の発表等</p> <p>・試験 50%：期末テスト（中間テストを行う場合や、レポート形式の試験となる場合があります）</p>						

履修上の注意	<ul style="list-style-type: none">・簿記は、他の科目と比べると、日々の地道な積み重ねが大切になる科目です。授業時間外にも、ある程度の時間をかけることが必要であり、決して授業を受けるだけで習得できるような楽な科目ではありません。そこは覚悟の上ご受講ください。・日々地道に積み重ねるといことは、日常生活に簿記にふれることを習慣として取り入れるということでもあります。できるかぎり授業には毎回出席し、定期的・継続的な学習を心掛け、ご自身の心地よい学習リズムを構築してください。やむを得ず授業を欠席する場合は、次回までに必ずご自身で補っておくようにしてください。・その他の受講に際しての注意事項（受講者の心得、授業進行上のルールなど）については、初回授業時以降、随時お伝えします。
教科書	「知る・わかる・わかる はじめての簿記入門（改訂新版）」 倉島進・川田崇之・中村智佐著、セルバ出版、ISBN：9784863676862
参考書	授業内でお伝えします。

科目区分	キャリア系列						
科目名	簿記・会計の実践						
担当教員	倉島 進					科目ナンバ-	Z21080
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	「簿記・会計の基礎」の内容を踏まえて、日商簿記検定試験に挑戦できるレベルの知識を達成する						
授業の概要	この授業では、会社活動とお金儲けの仕組みを勉強します。経営者は、お金の動きについて記録し財務諸表という報告書を作成し報告する義務があります。その報告書作成に必要な知識が簿記です。簿記に慣れ親しめるように、できるだけやさしい言葉で解説します。 簿記は続けて学習することが大切であり、自己トレーニングも必要です。「簿記・会計の基礎」の知識を生かしつつ、授業中に配布の問題や参考図書の問題集に取り組むことで、日商簿記検定試験3級合格レベルの力をつけていきます。						
到達目標	1. 簿記の基本的な知識は、企業の活動や経営を理解するために必要なものであることが分かる。【知識・理解】 2. ビジネスパーソンとして必要な、簿記の基本的な知識とは何かが分かる。【知識・理解】 3. 学んだ簿記の基本的な知識をどのように活かしていくことができるのか、イメージすることができる。【態度・志向性】 4. 簿記の基本的な知識を学ぶプロセスを通じて、自分と企業、企業と社会との関係性について意識できるようになる。【態度・志向性】						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、簿記・会計の基礎の復習</p> <p>第2回 簿記一巡</p> <p>第3回 試算表のしくみ</p> <p>第4回 決算の手続（決算の流れ、決算修正）</p> <p>第5回 決算の手続（決算整理作業、経過勘定科目）</p> <p>第6回 決算の手続（決算整理作業 減価償却、貸倒引当金）</p> <p>第7回 決算の手続（決算整理作業 売上原価、消耗品の処理）</p> <p>第8回 決算の手続～帳簿の締切</p> <p>第9回 次年度への準備</p> <p>第10回 貸借対照表・損益計算書の作成</p> <p>第11回 証ひょう及び伝票会計</p> <p>第12回 帳簿組織（商品有高帳の記入）</p> <p>第13回 決算整理仕訳と精算表の復習</p> <p>第14回 貸借対照表・損益計算書の復習</p> <p>第15回 総まとめと試験</p> <p>【留意点】 受講者数、受講生の理解や習得の度合い、授業の進捗などにより、内容の入れ替えや変更をする可能性があります。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>予習をするより、授業後の学習を徹底してください。授業は、みなさんが授業時間外の学習をしやすくするための導入作りの場という意味合いが強いです。</p> <p>・授業前準備学習：授業が進み回数を重ねるほど復習の範囲が広がるため、自然と授業後の学習時間が増えてきます。それが結果として次回の授業前準備学習となります。（学習時間：週2時間）</p> <p>・授業後学習：配布した授業資料と教科書を読み込み、理解を深めてください。授業資料や教科書に出てきた問題を繰り返し解いてください。必要に応じて、Webで自由に閲覧できる動画の視聴を求めます。（学習時間：週2時間）</p>						
授業方法	<p>テキストとして、『知る・わかる・わかる はじめての簿記入門』を利用して、授業を進めます。場合によっては、補充プリント等を配布することで、授業の理解度を深めてもらいます。 授業⇒演習と繰り返して、理解力をアップを図ります。 簿記は、積み上げですので、できるかぎり出席をしてください。授業中の演習を含めて、授業中での理解を深めてもらいます。</p> <p>本講座は、簿記に関する基礎知識を習得していることを前提として、授業を行いますので、「簿記・会計の基礎」の受講者もしくは、高校等で簿記会計に関する授業の経験者のレベルに設定して、授業と演習を繰り返して行います。 授業を通じて、日本商工会議所主催の簿記検定試験3級の合格レベルへ到達する予定です。 簿記は自己学習も必要です。このために、テキストと並行した問題集で問題演習を含めていただきます。</p> <p>【実務経験のある教員等による授業】 公認会計士として、簿記・会計の基礎を学んだ後、さらに演習を通じて、日商簿記検定試験3級レベルに到達ことを目標としてトレーニングをする。</p>						
評価基準と評価方法	<p>・平常点 50%：リアクションペーパー、小テスト、授業中の発表等</p> <p>・試験 50%：期末テスト（中間テストを行う場合や、レポート形式の試験となる場合があります）</p>						

履修上の注意	「簿記・会計の基礎」の履修者あるいは、それと同等以上の能力があると認められるものに限る。 簿記は知識の積み重ねが重要ですので、できる限り授業に出席をすること。 配布プリントは各回出席者のみに配布。欠席の時は翌週授業時に限り再配布。
教科書	「知る・わかる・わかる はじめての簿記入門（改訂新版）」 倉島進・川田崇之・中村智佐著、セルバ出版、ISBN:9784863676862
参考書	特に無し